陸前高田市文化財調査報告書第22集

陸前高田市内遺跡発掘調査報告書

― 中沢浜貝塚 ―

2000年3月
陸前高田市教育委員会

発刊にあたり

陸前高田市は、岩手県の東南端に位置する温暖な地であります。リアス式海岸特有の入り組んだ海岸線は、男性的な景観を形作り、暖流と寒流のぶつかり合う三陸沖は世界に誇る大漁場を形成し、我々に豊かな恵みを与えてくれます。このような豊かな自然環境の中で先人たちは、生活を営み、素晴らしい文化を育んでまいりました。中でも、史跡中沢浜貝塚をはじめとする多くの貝塚は、全国的にも著名なものが多く、「水産日本のルーツ」を知る上で、貴重な存在である貝塚群を形成しております。

中沢浜貝塚は、明治末期頃から人骨の出土する貝塚として県内、県外に広く知られた重要な遺跡で、考古学・人類学において果たしてきた役割は大きく、昭和９年に史跡として国指定を受けました。しかし、近年全国的にみられる経済・社会情勢の大きな変化は、開発事業等の増加を招くとともに、緊急発掘調査の数も急増させました。本市においても例外にもれず、年々発掘調査の件数は増加する傾向にあります。中沢浜貝塚についても、その発掘調査の多くが宅地造成や擁壁工事といった緊急発掘調査であり、同貝塚における輝かしい発見の数々は、そのほとんどが緊急発掘調査の成果に依るものといっても過言ではありません。このような状況の中で、中沢浜貝塚については、度重なる現状変更に伴う緊急発掘調査と遺跡保護との調整を図る施策の確立が長らく求められてきました。今回の調査もそうした中での緊急発掘調査となりました。

平成11年２月、本報告書と時期を同じくして「史跡中沢浜貝塚保存管理計画」がいよいよ刊行されました。この計画の策定によって、新たな保護施策の第一歩が踏み出されることになり、今後は史跡中沢浜貝塚の適正な保護と管理が、体系的・総合的に図ることができるものと期待されます。

中沢浜貝塚には、これまでの調査成果からも十分うかがえるように、まだまだ貴重な遺物・遺構が埋蔵されているものと考えられます。今回の調査でも、埋設土器、ピットの遺構をはじめ、中沢浜貝塚でははじめてとなる平安時代の人骨などが発見されています。これら先人たちが残した生活の痕跡は、今後の考古学発展に貢献する遺産であることは言うまでもありません。

まもなく訪れる21世紀は「環境の世紀」といわれておりますが、私たちは考古学によって解明されてきた自然と共にあった縄文時代の生活や彼らの考え方に学び、すばらしい自然環境を未来に伝えていかなくてはなりません。

本報告書が文化財愛護精神の普及と考古学の更なる発展の一助となるようご活用いただければ幸いと存じます。

おわりに、本調査を実施するにあたり、常にご指導、ご協力を賜りました岩手県教育委員会文化課と作業に従事された多くの方々、並びに関係各位、また、学問的見地からご教示をくださいました諸先生方に対し、心から感謝申し上げます。

平成12年３月

陸前高田市教育委員会教育長　熊　谷　睦　男

例　　言

1．本報告書は、平成10年度に国庫及び県費補助を受けて、岩手県陸前高田市広田町字中沢地内に所在する国指定史跡中沢浜貝塚の発掘調査の成果をまとめたものである。
2．本遺跡の発掘調査は、宅地造成に伴う緊急発掘調査である。
3．調査面積は60.0㎡である。野外調査は平成10年５月15日から７月２日までの期間で実施した。
4．調査体制は、次のとおりである。

団　　長	熊谷睦男	陸前高田市教育委員会教育長
総　　括	上部修一	陸前高田市教育委員会社会教育課長
事 務 局	菊池政雄	陸前高田市教育委員会社会教育課長補佐
調 査 員	佐藤正彦	陸前高田市立博物館主任兼学芸員
	高橋和弥	陸前高田市教育委員会社会教育課主事
調査補助員	上野立子　紺野志賀子　佐藤紀美　佐藤多恵子　佐藤とも子　鈴木初子	
	戸羽由美　村上よし子　吉田チヨ子	
整理作業員	青山道子　菅野美代　坂本優子　佐々木奈穂子　佐藤紀代子　佐藤とも子	
	鈴木キミ子　鈴木貞子　村上典子	

5．遺物の分析鑑定は次の方々に依頼した（敬称略）。
人骨：地土井健太郎　奈良貴史　百々幸雄（東北大学大学院医学系研究科人体構造学講座）
鈴木敏彦（東北大学歯学部口腔解剖学第一講座）
石材：白土豊（大船渡市立博物館）
6．掲載した土層の色調は、『新版標準土色帖』第４版（小山正忠・竹原秀雄編著　1973）による。
7．執筆は、Ⅴ－４は熊谷が、他は佐藤が担当し、編集は佐藤が担当した。
8．鑑定結果等について収録したものは次のとおりである。
「中沢浜貝塚1998年出土人骨」：地土井健太郎・奈良貴史・鈴木敏彦・百々幸雄
9．本遺跡から出土した遺物と調査記録は、陸前高田市立博物館に保管している。
10．野外調査においては、地権者である村上順一氏のご協力をいただいた。

目　次

中沢浜貝塚1998年度目次

発刊にあたり
例言
目次
Ⅰ　遺跡の位置と周辺の地形・・・1
Ⅱ　調査の経過と方法・・・・・・1
　1　調査に至る経過及び調査過程1
　2　調査と室内整理の方法・・・4
　（1）調査の方法・・・・・・・・4
　（2）室内整理・・・・・・・・・4
Ⅲ　層の堆積状況・・・・・・・・・6
Ⅳ　発見された遺構・・・・・・・・10
　1　Ⅰ区発見遺構・・・・・・・10
　（1）B02埋設土器　・・・・・・10
　（2）ピット・・・・・・・・・11
　　B02-1・2ピット・・・・・・11
　　B03-1ピット・・・・・・・13
　　B03-2ピット・・・・・・・13
　　C02-1ピット・・・・・・・14
　　C02-2ピット・・・・・・・14
　　C02-3ピット・・・・・・・14
　　C03-1ピット・・・・・・・14
　　C03-2ピット・・・・・・・18
　　C03-3ピット・・・・・・・18
　2　Ⅱ区発見遺構・・・・・・・20
　　C09-1ピット・・・・・・・20
　　E09-1ピット・・・・・・・20
　　E09-2ピット・・・・・・・21
Ⅴ　遺構外出土遺物・・・・・・・22
　1　土器・・・・・・・・・・・22
　2　石器・・・・・・・・・・・38
　3　骨角器・・・・・・・・・・46
　4　動物遺存体・・・・・・・・47
付編
　中沢浜貝塚1998年出土人骨・73～82

挿　図

第1図　中沢浜貝塚位置図・・・・2
第2図　地形図及び発掘区・・・・3
第3図　発掘調査区とグリットの設定・・・5
第4図　層の堆積状況・・・・・・7
第5図　Ⅰ区遺構配置図・・・・・9
第6図　B02埋設土器　・・・・・・10
第7図　埋設土器・・・・・・・・10
第8図　B02-1ピット・2ピット　・・11
第9図　B02-1ピット・2ピット出土遺物　・・12
第10図　B03-1ピット・2ピット　・・13
第11図　B03-2ピット出土遺物　・・14
第12図　C02-1・C02-2・C02-3・C03-1・C03-2ピット・15
第13図　C02-1・C03-1・C03-2ピット出土遺物　・・17
第14図　C03-3ピット出土遺物　・・18
第15図　C03-3ピット　・・・・・・19
第16図　C09-1ピット・E09-1ピット・E09-2ピット・・・20
第17図　E09-2ピット出土遺物　・・21
第18～28図　遺構外出土土器・27～37
第29～30図　遺構外出土石器・41～42
第31図　遺構外出土石器・骨角器・43

表

第1表　B02-1ピット・2ピット土層観察表　・・11
第2表　B03-1ピット・2ピット土層観察表　・・13
第3表　C02-1・C02-2・C03-1・C03-2ピット土層観察表　・・16
第4表　C03-3ピット土層観察表　・19
第5表　C09-1・E09-1・E09-2ピット土層観察表　・・20
第6表　ピット出土石器一覧表・・21

第７表　遺構外出土石器一覧表・・44
第８表　遺構外出土石器一覧表・・45
第９表　出土骨角器一覧表・・・・45
第10表　中沢浜貝塚出土動物遺存体
　　層位別出土表・・48～49

写真図版

写真図版１・・・・・・・・・・・58
1.Ⅰ区近景、2.Ⅰ区遺構検出状況、3.BO2埋設土器、4.BO2埋設土器半掘、5.BO2-1ピット・2ピット北壁セクション、6.BO3-1ピット完掘状況、7.BO3-2ピット完掘状況、8.CO2-1ピット・2ピット半掘状況
写真図版２・・・・・・・・・・・59
1.CO2-1ピット・2ピットアスファルト出土状況、2.CO2-1ピット・2ピット・CO3-1ピット完掘状況、3.CO2-1ピット・2ピット・CO3-1ピット・2ピット・3ピット完掘状況、4.CO3-2ピット・3ピット北壁セクション、5～7.CO3-3ピット人骨検出状況、8.Ⅰ区ピット群西より
写真図版３・・・・・・・・・・・60
1.Ⅰ区ピット群南より、2.CO4グリット出土遺物、3.Ⅱ区近景、4.CO9-1ピット完掘状況、5.Ⅱ-２区北壁
写真図版４・・・・・・・・・・・61
BO2埋設土器、BO2-1ピット・2ピット、BO3-2ピット、CO2-1ピット・CO3-1ピット・2ピット、CO3-3ピット、EO9-2ピット
写真図版５～10　出土土器・・62～67
写真図版11～14　出土石器・・68～71
写真図版15　出土骨角器・・・72

中沢浜貝塚1999年度目次

Ⅰ 調査至る経過及び調査経過　・・52
Ⅱ 層序　・・・・・・・・・・・・52
Ⅲ 出土遺物　・・・・・・・・52～53
　1 土器
　2 石器
第１図　地形図・・・・・・・・・54
第２図　発掘区・・・・・・・・・55
第３図　層の堆積状況・・・・・・56
第４図　遺構外出土土器・石器・・57

写真図版

写真図版３・・・・・・・・・・・60
6・7.ＮＺＨ99 Ⅰ区、8.ＮＺＨ 99 Ⅱ区

Ⅰ　遺跡の位置と周辺の地形（第１図・第２図）

国指定史跡「中沢浜貝塚」は、岩手県陸前高田市広田町字中沢地内に所在し、市の中心部から南東方向に直線距離にして約９km、ＪＲ大船渡線小友駅から南へ約４kmの地点に位置する。

陸前高田市は岩手県の東南端に位置し、宮城県に隣接している。市境は、東は大船渡市、西は東磐井郡大東町、南は宮城県唐桑町及び気仙沼市、北は気仙郡住田町と隣接し、東南方向は太平洋と面している。

中沢浜貝塚が所在する広田町は、岩手県における宮古市から本市まで続くリアス式海岸特有の突出した岬と湾入が交互に連続する複雑な海岸線の最南端で、南東方向に大きく突き出た広田半島に位置する。東方には湾口部約 1.5km、湾奥まで約２kmのＣ字状の大野湾が開口し、西方には湾口部約3.5km、湾奥まで約７kmの逆Ｕ字状の広田湾が開口する。広田半島は、北で小友町と隣接するが周囲は太平洋に面し、大野湾の湾入によって「ひょうたん」のような形を成している。半島は付け根に西方から小友浦が入り込み、縄文海進期には島になっていたと考えられる。半島先端のほぼ中央には大森山（標高147.2m）が、北の小友町よりの中央やや西に仁田山（標高254m）がそれぞれそびえる。

遺跡は、広田湾を眼下に望む半島先端部の大森山山麓の西側に広がる緩斜面上に位置し、南と北は沢によって開析される。遺跡の中心は、現在の海岸線より250mほど東の地点にあり、海抜5～20m、面積は約17,000㎡である。かつては、遺跡の前面まで海が湾入し、白砂の砂浜を形成していたが、埋め立てにより消滅し丘陵の一部南側に広がる砂丘にその面影を残すのみである。

現在は住宅が立ち並び、平成11年２月に保存管理計画を策定し（注１）、遺跡の保護活用と開発行為との調整を図っているところである。

注１　国指定史跡「中沢浜貝塚」保存管理計画書　平成１１年２月　岩手県陸前高田市

Ⅱ　調査の経過と方法

１　調査に至る経過及び調査過程

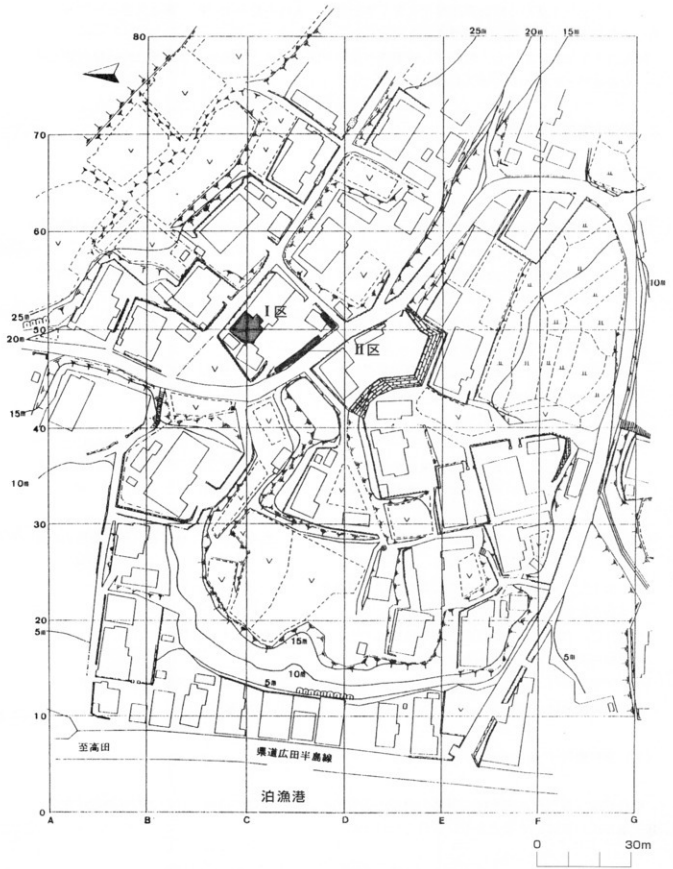
本調査は、史跡中沢浜貝塚に係る現状変更（住宅改築・擁壁工事）許可申請に伴う緊急発掘調査である。

平成９年６月４日付けで陸前高田市広田町字中沢８４　村上順一氏より住宅の一部の建て替えと擁壁工事をしたいとして、現状変更許可申請がなされた。同地に隣接した箇所からは、過去の発掘調査の際に縄文時代前期・中期の貝層とフラスコピット等の遺構が検出されており、現状変更前の発掘調査が必要との当教育委員会の意見書を付し、平成９年６月17日付け陸高教社第83号で進達した。

その後、平成９年７月24日付け委保第４の639 号で、文化庁長官より工事の着手は発掘調査終了後とし、貴重な遺構が検出された場合は設計変更等によってその保存を図ることの指示があった。しかし、発掘調査の経費負担は個人では困難であるとして、村上氏より平成10年度の文化財国庫補助事業として欲しいとの依頼があり、県教委からの指導を受けながら関係事務を取り進め、国庫補

第1図　岩手県図

第1図　中沢浜貝塚位置図



第2図　地形図及び発掘区

助を導入し、平成10年５月15日から屋外調査を開始した。

調査面積約60㎡で、人力により１ｍ程掘り下げ、地山に達し、ピット９基・埋設土器１基を検出し、うちピット１基からは保存良好な人骨１体を得た。人骨の取り上げは、東北大学医学部解剖学第１講座の地土井健太郎氏の指導のもと実施した。

調査は７月２日に終了し、埋め戻しは遺構の保存を図るため、遺構の上面を厚さ30cm程の砂で覆い、その後バックホーンを導入し埋め戻した。

２　調査と室内整理の方法

(1) 調査の方法（第３図）

（ア）発掘調査区は、丘陵東側の鞍部に位置し、大設定図のＢ40・50、Ｃ40・50の標高19～20ｍの地点にある。調査区の周辺は、西側には市道が通り、北側は畑地、南側・東側は宅地である。これまでの調査では、市道と畑地が発掘調査されており、保存良好な縄文時代前期と中期の貝層、フラスコピットが検出されている。

調査区は、建物の改築部分をⅠ区とし、擁壁構築部分をⅡ区とした。Ⅰ区は、グリット設定は建設予定の住宅にあわせて設定し、南東～北西方向にアルファベット、北東～南西方向に算用数字の組合わせで表される３ｍ四方のグリッドを設定し、北方向の交点の杭によってＢ０３・Ｂ０４のように表した。Ⅱ区は、擁壁の構築にあわせ、60cm×３ｍ程の調査区を４区画設定し、Ⅱ－１、Ⅱ－２、Ⅱ－３、Ⅱ－４区とした。

（イ）Ⅰ区の調査は、建物の部分改築に伴うもので、建物の部分的な解体後、調査を開始した。該地は砂地のため、土砂崩落の危険があり、残った建物から２ｍ程間隔をあけ、調査区を設定した。なお、調査中、南東壁に入り込む人骨を検出し、部分的に建物方向に発掘区を拡幅している。

（ウ）検出した遺構は、調査においてはN01 ピットから通し番号によって表記し、室内整理の段階でグリット毎の通し番号に変更した。

（エ）出土した遺物は、層位ごとに取り上げ、遺跡記号（ＮＺＨ）、出土年月日、グリッド名、層番号を記録した。

（オ）Ⅱ区において、一部混貝土層を検出しているが、混貝土層はすべて持ち帰った。また、埋設土器内部の土も全て持ちかえった。

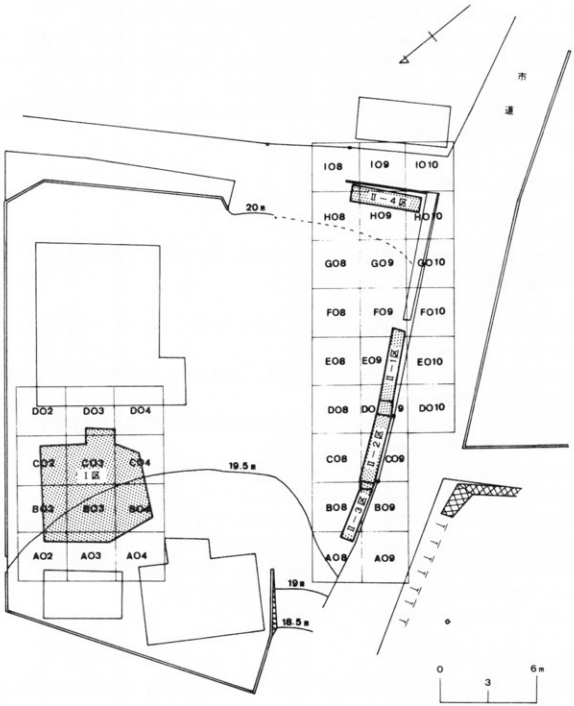
（カ）平面実測は、グリット軸にあわせた１ｍメッシュを基本とし、1/10・1/20の縮尺を用いた。

（キ）写真記録は、35㎜モノクロ、カラーとカラースライド各1台を用いた。

（２）室内整理

野外調査で得られた実測図、写真、遺物の各資料は、室内整理の段階で次のとおり処理、整理し報告書作成の基礎にするとともに資料化を行った。

（ア）土器・土製品は、発掘調査後、室内に持ち帰り整理を行った。57×39×13.5cmのコンテナで約５箱程度の出土量である。水洗後、各遺物に注記を行い、各出土地点、層位毎に仕分けを行



第3図　発掘調査区とグリットの設定

い復元した。その後、拓本、実測、写真撮影の順で整理を行った。

（イ）石器は、発掘調査後、室内に持ち帰り整理を行った。室内においては、計測、写真撮影、実測を行った。石器は約124 点が出土しており、データーはすべてコンピューターに入力し、管理した。石材の分析は、大船渡市立博物館学芸員白土豊氏に鑑定を依頼した。

（ウ）図面は、トレースを行い図化した。土器、土製品、石器に関してはそれぞれの遺物カードを作成した。各実測図は、層位毎に分類し、原図点検の上、報告書作成に必要なものについて第２原図を作成し、トレース、コピーをし、それを用いた。

（エ）写真は、ネガと密着焼き付けのものをアルバムに貼付し整理した。カラースライドはスライドファイルに撮影順に収納した。

3　層の堆積状況（第４図）

Ⅰ区（第４図－１）

基本層序図は、Ⅰ区の南東壁を表したものである。層は７層に大別され、各層はほぼ水平に体積している。層の概要は以下の通りである。

１層　表土ないし耕作土。褐色（10YR 4/4）を呈し、締まって硬い。粘性は弱い。炭化物・焼土は見られず、遺物は少ない。

２層　にぶい黄褐色（10YR 5/3）を呈し、締まって硬い。粘性は弱い。炭化物を微量に含むが焼土は見られない。遺物は少ない。

３層　黒褐色（10YR 3/2）を呈し、締まって硬い。粘性は弱い。炭化物・焼土は見られない。遺物は多く、３層上面から須恵器片が出土している。

４層　黒褐色（10YR 3/2）を呈し、締まって硬い。粘性は弱い。炭化物を微量に含むが焼土は見られない。遺物は多い。C03-3 ピットが掘り込んでいる。

５層　黒褐色（7.5 YR 2/2）を呈し、やや柔い。粘性は弱い。炭化物を微量に含むが焼土は見られない。遺物は多い。上面はC02-3 ピット・C03-2 ピットの検出面である。

６層　黒褐色（10YR 2/2）を呈し、やや柔い。粘性は弱い。炭化物を微量に含むが焼土は見られない。遺物は多い。C02-3 ピット・C03-2 ピットに掘り込まれる。

７層　地山。花崗岩の風化土である。

Ⅱ区（第４図－２）

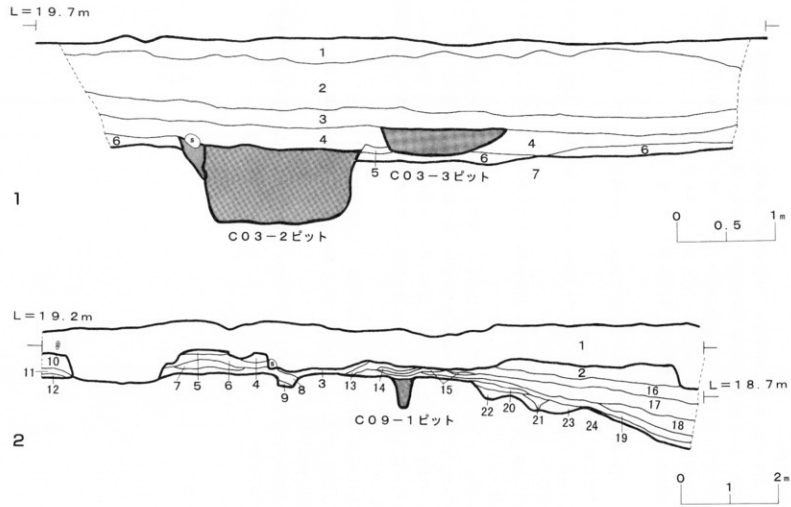
基本層序図は、Ⅱ区の北東壁を表したものである。層は24層に大別され、各層は南東方向に傾斜する。層の概要は以下の通りである。

１層　攪乱層。表土。

２層　灰褐色（7.5YR 6/2 ）を呈し、柔い。粘性は弱い。炭化物・破砕貝を微量に含む。焼土は見られない。土器片少量。

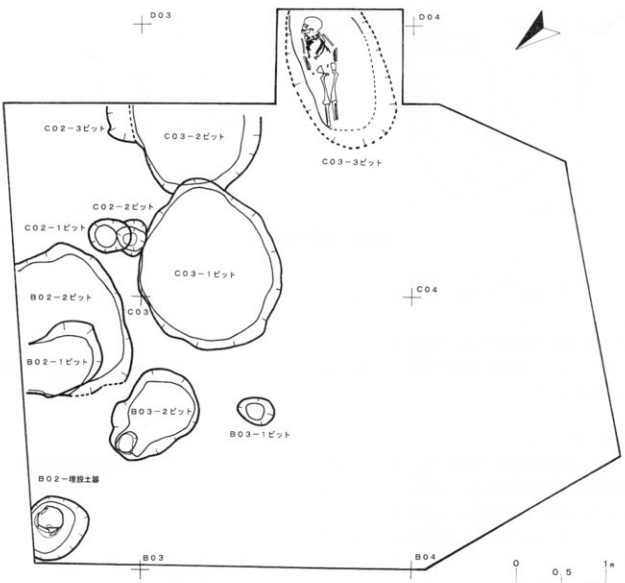
３層　黒褐色（10YR 4/4）を呈し、柔い。粘性は弱い。炭化物・破砕貝を微量に含む。焼土は見られない。土器片少量。

４層　黒褐色（10YR 2/2）を呈し、やや柔い。粘性は弱い。炭化物・焼土はない。土器片少量。


L＝19.7m
1
2
3
4
5
6
7
C03－3ピット
C03－2ピット
0
0.5
1m
L＝19.2m
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
C09－1ピット
L＝18.7m
2
0
1
2m

第4図　層の体積状況図

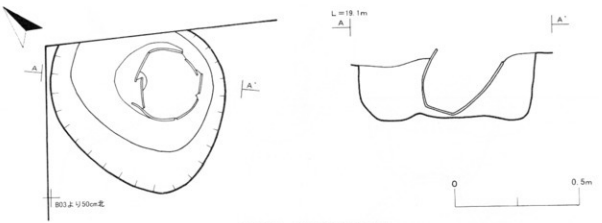
5層　黒褐色（10YR 2/2）を呈し、柔い。粘性は弱い。炭化物微量、焼土なし。土器片少量。
6層　黒色（10YR 2/1）を呈し、やや柔い。粘性は弱い。炭化物・焼土なし。土器片を多量。
7層　黒色（10YR 1.7/1）を呈し、やや柔い。粘性は弱い。炭化物微量、焼土なし。土器片少量。
8層　黒褐色（10YR 3/1）を呈し、やや柔い。粘性は弱い。炭化物微量、焼土なし。土器片・破砕貝・骨を少量含む。
9層　黒褐色（10YR 3/3）を呈し、やや柔い。粘性は弱い。炭化物・焼土・遺物なし。
10層　黒色（10YR 1.7/1）を呈し、柔い。粘性は弱い。炭化物・焼土なし。土器片少量。
11層　黒色（10YR 2/1）を呈し、柔い。粘性は弱い。炭化物・焼土なし。土器片少量。
12層　黒褐色（10YR 3/1）を呈し、やや硬い。粘性は弱い。炭化物・焼土なし。土器片少量。
13層　黒色（10YR 2/1）を呈し、やや柔い。粘性は弱い。炭化物・焼土なし。土器片少量。破砕貝微量。
14層　黒褐色（10YR 3/2）を呈し、柔い。粘性は弱い。炭化物微量、焼土なし。土器片少量。小貝ブロックを含む。
15層　黒褐色（10YR 2/2）を呈し、柔い。粘性は弱い。炭化物・焼土なし。土器片少量。少量の破砕貝を含む。
16層　暗褐色（7.5YR 3/4 ）を呈し、柔い。粘性は弱い。炭化物微量、焼土なし。土器片少量。破砕貝微量。
17層　黒色（7.5YR 2/1 ）を呈し、柔い。粘性は弱い。炭化物・焼土を微量に含む。土器片少量。
18層　黒色（7.5YR 2/2 ）を呈し、柔い。粘性は弱い。炭化物・焼土なし。土器片少量。
19層　黒褐色（7.5YR 3/1 ）を呈し、柔い。粘性は弱い。炭化物・焼土なし。土器片少量。
20層　黒褐色（2.5YR 3/2 ）を呈し、柔い。粘性は弱い。炭化物微量、焼土なし。真砂を少量。遺物なし。
21層　褐色（10YR 4/1）を呈し、柔い。粘性は弱い。炭化物・焼土なし。土器片少量。
22層　オリーブ褐色（2.5YR 4/4 ）を呈し、柔い。粘性は弱い。炭化物は微量、焼土なし。真砂を少量含む。遺物なし。
23層　にぶい黄褐色（10YR 4/3）を呈し、やや硬い。粘性は弱い。炭化物を微量に含むが焼土はない。土器片少量。


D03
D04
C02－3ピット
C03－2ピット
C03－3ピット
C02－2ピット
C02－1ピット
C03－1ピット
B02－2ピット
C03
C04
B02－1ピット
B03－2ピット
B03－1ピット
B02－埋設土器
B03
B04
0
0.5
1m

第5図　Ⅰ区遺構配置図

Ⅳ　発見された遺構

平成１０年度の中沢浜貝塚の発掘調査において発見された遺構は、建物の改築に伴う調査箇所（Ⅰ区）において埋設土器１基・ピット10基、擁壁構築に伴う調査箇所（Ⅱ区）においてピット３基がある。以下、Ⅰ区、Ⅱ区に区分を行い説明を行う。



第6図　B02埋設土器

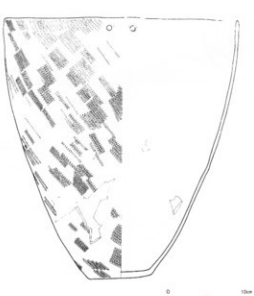
1　Ⅰ区発見遺構（第５図、写真図版１－１・２）

(1) B02 埋設土器（第６図、写真図版１－３・４）

B02 グリットの壁際の６層（黒褐色土層）上面において東方向に傾いた状態で、埋設された深鉢を１基検出した。

［掘り方］

埋設土器の掘り方の平面形は楕円形で、一部は未発掘区へと広がる。規模は、開口部長軸92cm・短軸79cm、底部は長軸90cm・短軸70cm、深さ70cmである。壁は、ほぼ直壁上に立ち上がっている。掘り方の埋土は、黒褐色(10YR 2/3)の１層からなる。

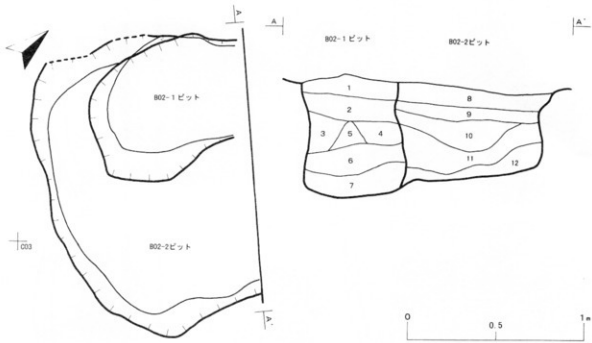


第7図

［埋設土器］（第７図、写真図版１－３・４）

埋設された土器は、平縁の深鉢である。口縁は幾分内湾気味に立ち上がっている。文様は、地文のみで、口唇部直下までRLの斜縄文が施文され、補修孔を有している。埋設土器の大きさは、口縁部直径29.8cm、高さが33.5cmである。

埋設土器内部からは、16,000cc、16,820g の土を得ており、フルイ分析を行った結果、3.1gの骨・貝を得た。種同定できたものはタイ科の歯とアイナメの副蝶形骨１点、フサカサゴ科の一種の上



第8図　B02－1ピット・2ピット

第1表　B02－1ピット・2ピット土層観察表

層名	土　色	性　状
1	10YR 2/3　黒褐色	炭化物微量、焼土無し、風化した花崗岩礫を含む。粘性は弱い、固さはやや柔らか、真砂を微量に含む。
2	10YR 3/3　暗褐色	炭化物無し、焼土無し、土器片有り、粘性は弱い、固さはやや柔らか、真砂を微量に含む。
3	10YR 3/4　暗褐色	炭化物無し、焼土無し、土器片有り、粘性は弱い、固さはやや柔らか、真砂を微量に含む。
4	2.5YR 4/3 オリーブ褐色	炭化物無し、焼土無し、遺物無し、粘性は弱い、固さはやや柔らか、真砂を微量に含む。
5	10YR 3/3　暗褐色	炭化物微量、焼土無し、礫1点、粘性は弱い、固さはやや柔らか、真砂を微量に含む。
6	10YR 4/3　にぶい黄褐色	炭化物微量、焼土無し、遺物無し、粘性は弱い、固さはやや柔らか、真砂を微量に含む。
7	2.5YR 3/3 暗オリーブ褐色	炭化物微量、焼土無し、遺物無し、粘性は弱い、固さはやや柔らか、真砂を微量に含む。
8	10YR 2/2　黒褐色	炭化物無し、焼土無し、土器細片有り、粘性は弱い、固さはやや柔らか、真砂を微量に含む。
9	10YR 3/2　黒褐色	炭化物微量、焼土無し、遺物無し、粘性は弱い、固さはやや柔らか、真砂を微量に含む。
10	10YR 3/3　暗褐色	炭化物微量、焼土無し、土器片有り、粘性は弱い、固さはやや柔らか、真砂を微量に含む。
11	2.5YR 3/3 暗オリーブ褐色	炭化物微量、焼土無し、風化した花崗岩礫を含む。粘性は弱い、固さはやや柔らか、真砂を微量に含む。
12	2.5YR 4/3 オリーブ褐色	炭化物無し、焼土無し、風化した花崗岩礫を含む。粘性は弱い、固さはやや柔らか、真砂を微量に含む。

舌骨（L）1点、パツラマイマイ1点、イシダタミ・アサリ・イガイ科の細片があるが、人骨は含まれていない。

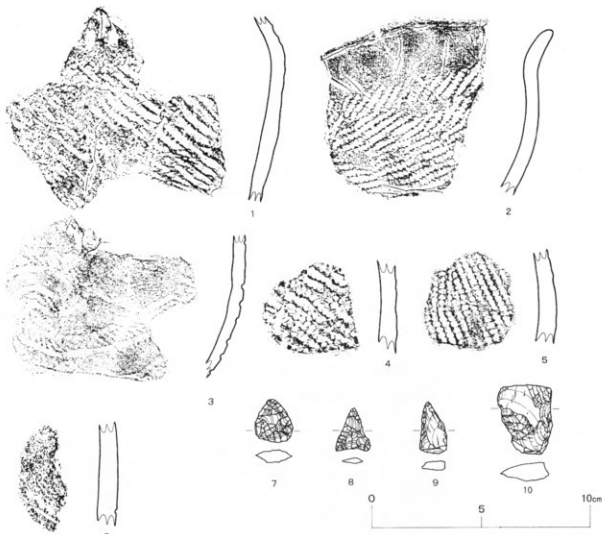
(2) ピット

B02-1 ・2 ピット（第8図、第1表、写真図版1－5）

B02 グリットの6層上面において検出した。検出時はピットは1基と思われたが、セクションの観察から2基であることが判明した。ともに未発掘区に広がる。B02-1 ピットがB02-2 ピットを切る。

B02-1 ピットは、平面形は主軸を南北方向に持つ楕円形と思われ、規模は、開口部の長軸85cm・短軸76cm、底部の長軸70cm・短軸62cmで、深さは70cmである。壁は、ほぼ直壁状に立ち上がっている。埋土は7層からなり自然堆積である。

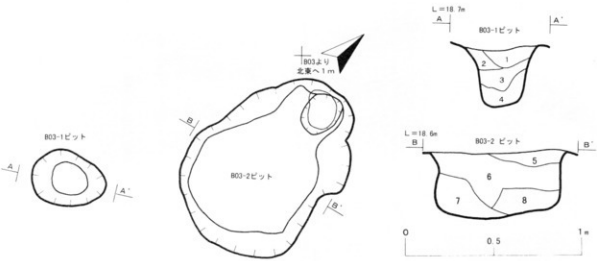
B02-2 ピットは平面形は円形と思われ、規模は開口部の長軸168cm ・短軸137cm 、底部の長軸110cm ・短軸97cmで、深さは49cmである。埋土は5層からなり自然堆積である。



第9図　B02－1ピット・2ピット出土遺物

［出土遺物］（第９図１～10、写真図版４）

B02-1 ・2 ピットからは、土器片158 点（うち底部資料6 点）、石器４点、土製円盤３点があるが、どちらのピットからの出土遺物であるかは不明である。土器片３点、土製円盤３点、石器４点を図示した。１・３は深鉢の体部片である。１は刺突文を有している。３は沈線と磨消縄文によって曲線文を描かれている。２は波状口縁をなす深鉢の口縁部片である。口縁は頸部で締まり外反している。口縁部は無文で、体部には斜縄文が施文されている。４～６は土製円盤である。４・６は打ち欠きによる整形後、全周を研磨しているものである。６は半分が欠損する。５は、打ち欠きによって整形を施し、部分的に研磨している。７・８は無茎の石鏃である。７は基部は円基をなし側縁は外弧をなしている。８は基部は凹基をなし、側縁は基部付近で膨らみ、基部の抉りは浅い。９・10は不定型石器である。９は二辺に、10は一辺に、片刃の刃部を有している。



第10図　B03－1ピット・2ピット

第2表　B03－1ピット・2ピット土層観察表

層名	土　色	性　状
1	10YR 4/3 にぶい黄褐色	炭化物無し。焼土無し。遺物無し。粘性は弱い。固さは硬い。真砂を微量に含む。
2	2.5YR 3/3 暗オリーブ褐色	炭化物無し。焼土無し。遺物無し。粘性は弱い。固さは硬い。真砂を微量に含む。
3	2.5YR 4/3 オリーブ褐色	炭化物無し。焼土無し。遺物無し。粘性は弱い。固さは硬い。真砂を微量に含む。
4	2.5YR 3/3 暗オリーブ褐色	炭化物無し。焼土無し。遺物無し。粘性は弱い。固さは硬い。真砂を微量に含む。
5	10YR 3/3　暗褐色	炭化物微量。焼土無し。遺物無し。粘性は弱い。固さは柔らか。真砂を微量に含む。
6	10YR 3/2　黒褐色	炭化物微量。焼土無し。土器細片有り。粘性は弱い。固さは柔らか。真砂を微量に含む。
7	10YR 3/3　暗褐色	炭化物微量。焼土無し。土器細片有り。粘性は弱い。固さは柔らか。真砂を微量に含む。
8	10YR 3/2　黒褐色	炭化物微量。焼土無し。土器細片有り。粘性は弱い。固さは柔らか。真砂を微量に含む。2.5YR 3/6 暗褐色土を微量に含む。

B03-1 ピット（第10図、第２表、写真図版１－６）

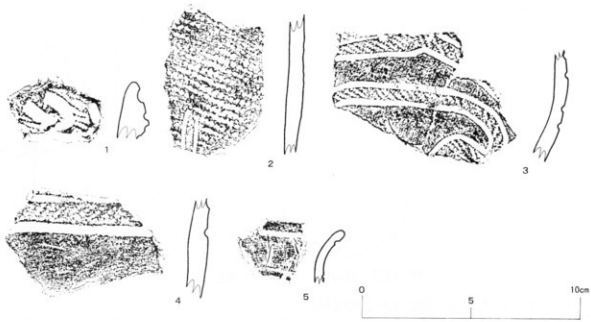
B03 グリットの地山面において検出した。平面形は、南西－北東方向に長軸をもつ楕円形である。規模は、開口部の長軸41cm・短軸21cm、底部の長軸32cm・短軸18cm、深さ32cmである。壁は、底部付近では急に立ち上がっているが、開口部付近は緩やかに傾斜している。埋土は４層からなり自然堆積である。出土遺物は、土器片22点があるが割愛した。

B03-2 ピット（第10図、第２表、写真図版１－７）

B03 グリットの地山面において検出した。平面形は、南北方向に長軸を持つ楕円形である。規模は、開口部の長軸110cm ・短軸98cm、底部の長軸78cm・短軸65cm、深さ36cmである。北端の床面に、楕円形の小ピットを有し、規模は、開口部の長軸25cm・短軸20cm、底部の長軸22cm・短軸15cm、深さ20cmである。埋土は４層からなり自然堆積である。

［出土遺物］（第11図１～５、写真図版４）

出土遺物は、土器片77点（うち底部資料３点）が出土した。土製円盤１点と土器片５点を図示した。１は深鉢の口縁部片である。口縁は波状口縁をなし、外反している。波頂部下には地文と沈線による弧状の文様を有している。２～４は深鉢の体部片である。３は横位沈線と磨消縄文によって文様が描かれ、４は沈線と磨消縄文によって曲線文が描かれている。２は地文上に沈線が描かれる。５は壺の口縁部片である。口縁は平縁をなし、外反する。口縁部には、口縁に平行する一条の縄文原体の側面圧痕文と幅の狭い横位沈線を有している。



第11図　B03-2ピット出土遺物

C02-1 ピット（第12図、第３表、写真図版１－８、２－１～３）

C02 グリットの地山面において検出した。C02-2 ピットを切る。平面形は楕円形で、規模は開口部の長軸47cm・短軸38cm、底部の長軸25cm・短軸22cm、深さ27cmである。壁は比較的緩やかに傾斜している。埋土は３層からなり、自然堆積で、花崗岩の礫を含んでいる。

［出土遺物］（第13図１、写真図版４）

出土遺物はアスファルト塊１点のみである。アスファルト塊は床面より26cm上の第１層中よりの出土である。形状は、偏平な楕円形を呈する。大きさは、長さが8.42cm・幅7.57cm・厚さ4.8 cm・重さ113gである。

C02-2 ピット（第12図、第３表、写真図版２－２・３）

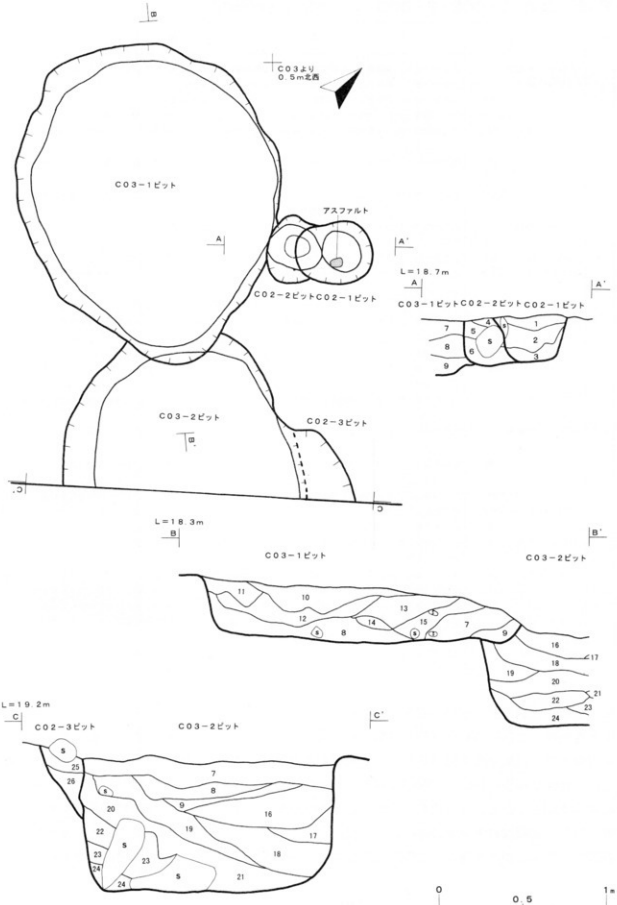
C02 ・C03 グリットの地山面において検出した。C02-1 ピットに切られる。平面形は不明である。残存部の大きさは、開口部で長軸41cm・短軸38cm、底部の長軸15cm・短軸13cm、深さ28cmである。壁は西壁では急に立ち上がっている。埋土は4 層からなり自然堆積で、大型の花崗岩礫を含む。出土遺物はない。

C02-3 ピット（第12図）

C02 グリットの地山面において検出した。C03-2 ピットによって大部分が切られ、形状・規模等不明である。出土遺物は無い。

C03-1 ピット（第12図、第３表、写真図版２－２・３）

B03 ・C03 グリットの地山面において検出した。C03-2 ピットを切る。平面形は北西－南東方向に長軸を持つ楕円形で、規模は、開口部で長軸190cm ・短軸157cm 、底部の長軸169cm ・短軸146cm、深さ28cmである。底面はほぼ平坦で、壁の断面は北東壁では緩やかに傾斜している。埋土は８層からなり自然堆積である。



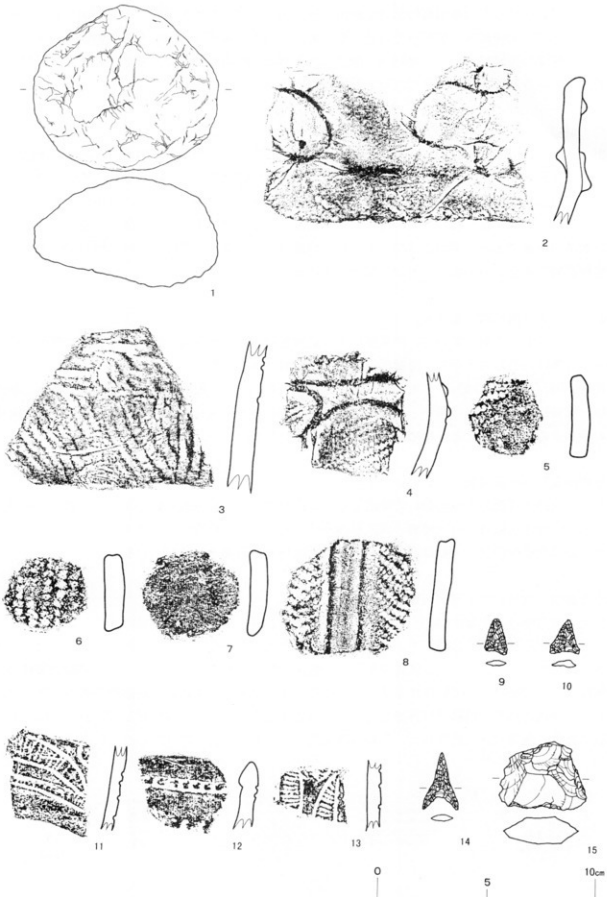
第12図　C02−1ピット・2ピット・3ピット
C03−1ピット・2ピット・

第3表　CO2－1・CO2－2・CO3－1・CO3－2土層観察表

層名	土　　色	性　　状
1	2.5YR 3/2 黒褐色	炭化物・焼土・遺物無し。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。サラサラしている。
2	2.5YR 3/3 暗オリーブ褐色	炭化物・焼土・遺物無し。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。サラサラしている。
3	2.5YR 4/3 オリーブ褐色	炭化物・焼土・遺物無し。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。サラサラしている。
4	10YR 4/3　にぶい黄褐色	炭化物微量。焼土・遺物無し。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。サラサラしている。
5	2.5YR 4/4 オリーブ褐色	炭化物微量。焼土・遺物無し。花崗岩礫あり。粘性は弱い。固さはやや柔らか。真砂を微量に含む。サラサラしている。
6	2.5YR 4/3 オリーブ褐色	炭化物・焼土・遺物無し。花崗岩礫あり。粘性は弱い。固さはやや柔らか。真砂を微量に含む。サラサラしている。
7	10YR 4/3　にぶい黄褐色	炭化物・焼土無し。土器片あり。風化した花崗岩礫あり。粘性は弱い。固さはやや柔らか。真砂を微量に含む。サラサラしている。10YR 4/4暗褐色土を含む。
8	10YR 4/4　褐色	炭化物微量。焼土・遺物無し。小礫あり。粘性は弱い。固さはやや柔らか。真砂を微量に含む。サラサラしている。
9	2.5YR 4/3 オリーブ褐色	炭化物・焼土・遺物無し。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。サラサラしている。
10	10YR 4/3　にぶい黄褐色	炭化物微量。焼土無し。土器片あり。小礫あり。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。サラサラしている。
11	10YR 4/4　褐色	炭化物・焼土無し。土器片あり。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。サラサラしている。
12	10YR 4/4　褐色	炭化物微量。焼土無し。遺物無し。小礫あり。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。サラサラしている。
13	2.5YR 4/3 オリーブ褐色	炭化物微量。焼土無し。土器片あり。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。サラサラしている
14	2.5YR 4/3 オリーブ褐色	炭化物・焼土・遺物無し。2㎜以下の破砕貝を微量に含む。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。サラサラしている。
15	10YR 4/4　褐色	炭化物微量。焼土無し。遺物無し。小礫あり。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。サラサラしている。
16	10YR 3/4　暗褐色	炭化物多し。焼土無し。遺物無し。小礫あり。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。サラサラしている。
17	2.5YR 4/4 オリーブ褐色	炭化物微量。焼土無し。遺物無し。小礫あり。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。サラサラしている。
18	10YR 4/3　にぶい黄褐色	炭化物微量。焼土・遺物無し。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。サラサラしている。
19	2.5YR 4/3 オリーブ褐色	炭化物微量。焼土無し。土器片１点。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。サラサラしている
20	2.5YR 4/4 オリーブ褐色	炭化物微量。焼土・遺物無し。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。サラサラしている。
21	10YR 3/2　黒褐色	炭化物微量。焼土・遺物無し。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。サラサラしている。10YR 4/3 にぶい黄褐色土を含む。
22	2.5YR 4/4 オリーブ褐色	炭化物・焼土・遺物無し。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。サラサラしている。
23	10YR 4/3　にぶい黄褐色	炭化物・焼土・遺物無し。小礫あり。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。サラサラしている
24	2.5YR 4/4 オリーブ褐色	炭化物微量。焼土・遺物無し。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。サラサラしている。
25	7.5YR 2/2 黒褐色	炭化物微量。焼土無し。土器細片あり。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。サラサラしている。
26	10YR 2/2黒褐色	炭化物微量。焼土無し。土器片あり。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。サラサラしている

［出土遺物］（第13図２～10、写真図版４）

出土遺物は、土器片194 点（うち底部資料４点）、土製円盤４点、石鏃２点がある。土器片３点、土製円盤４点、石鏃２点を図示した。２は深鉢の口縁部片である。口縁部は内湾する。口縁部に幅の広い口縁部文様帯を有し、口縁部文様帯の表裏には隆線によって曲線文が描かれている。３・４は深鉢の体部片である。３は沈線と縄文、４は沈線と縄文によって文様が描かれる。５～８は土製円盤である。側縁は打と欠きのみによって整形が施されている。９・10は石鏃である。ともに無茎の石鏃で、基部に抉りを有し、二等辺三角形状で、９は側縁は外弧、10は側縁は内弧である。



第13図　C02－1・C03－1・C03－2ピット出土遺物

C03-2 ピット（第12図、第３表、写真図版２－３・４）

C02 ・C03 グリットの地山面において検出した。C03-1 ピットに北東壁の一部が切られ、C03-3 ピットを切る。未発掘区へ広がっている。平面形は不明で、規模は、開口部で長軸143cm ・短軸120cm 、底部の長軸120cm ・短軸86cm、深さ56cmである。底面は平坦で、壁は、北東壁では緩やかに傾斜している。埋土は９層からなり自然堆積である。

［出土遺物］（第13図11～15、写真図版４）

出土遺物は、土器片133 点（うち底部資料４点）、石鏃１点、不定型石器１点がある。土器片３点、石鏃１点、不定型石器１点を図示した。12は深鉢の口縁部片である。口縁は内湾し、口唇部で肥厚している。口縁部には半裁竹管の押し引きよる文様を有している。11・13は深鉢の体部片である。文様は入り組み文を有し、入り組み文内部には、11では刻みを、13では爪型文を有している。14は無茎の石鏃である。基部には抉りを有し、側縁は、中央部から基部にかけて膨れている。15は不定型石器である。直線状の片刃の刃部を一辺に有している。

C03-3 ピット（第15図、第４表）

C03 グリットの４層において、南東壁に入り込む脛骨の一部を検出した。そのため、埋葬人骨の埋蔵の可能性があることから、発掘区を拡幅し、人骨一体を得た。ピットの平面形は、楕円形で、規模は、開口部で長軸160cm ・短軸101cm 、底部の長軸141cm ・短軸73cm、深さ29cmである。断面形は、船底状で、埋土は２層からなり人為的堆積と思われる。

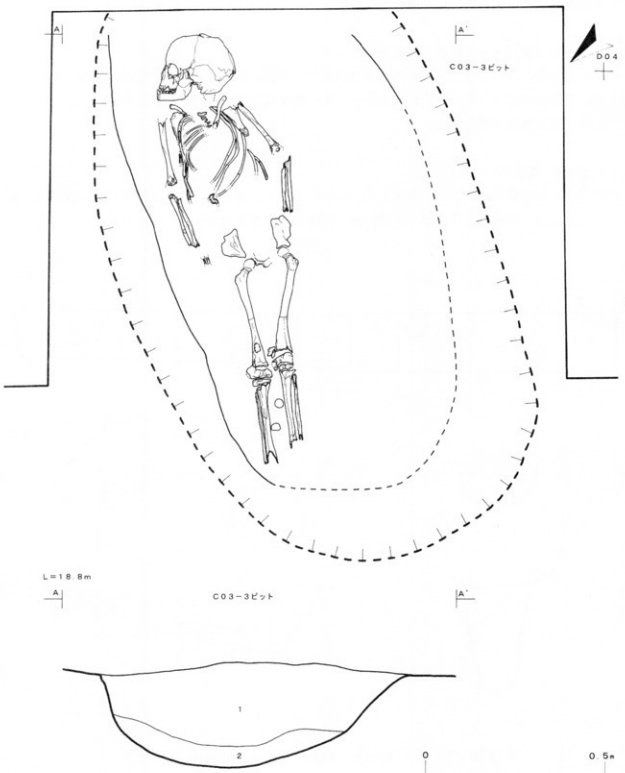
［埋葬状況］（写真図版２－５・６・７）

ピット底面より幾分上位において検出した。足の指骨など、部分的に骨を欠くが、概して保存良好である。埋葬状態は、一次埋葬の仰臥伸展葬で、ピットの北壁寄りに埋葬される。頭位方向は南東で、顔は北東を向き、主軸はＥ－26°－Ｓで、ほぼ墓坑長軸と一致している。

［出土遺物］（第14図・写真図版４）

出土した遺物は、土器片397 点（うち底部８点）と石鏃１点がある。土器片４点と石鏃１点を図示した。出土した土器片は細片で、埋葬時の副葬品とは思われない。１は深鉢の体部片で網み目状の撚り糸文を有している。２は深鉢の頸部片で数条の横位沈線を有している。３は平縁の深鉢の口縁部片で、口唇部直下まで原体が施文されている。４は平縁をなす鉢の口縁部片である。頸部で「く」の字状に折れ、口縁部は外傾している。口唇と内面に一条の沈線を有している。５は有茎の石鏃である。鏃身は正三角形状で、側縁は外弧をなし、茎部は長く作り出されている。

第14図　C03－3ピット出土遺物



第15図　C03－3ピット

第4表　C03－3ピット土層観察表

層名	土　色	性　状
1	10YR 2/2　黒褐色	炭化物・焼土無し。土器片微量に含む。粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。
2	10YR 2/1　黒色	炭化物微量。焼土・遺物無し粘性は弱い。固さはやや硬い。真砂を微量に含む。

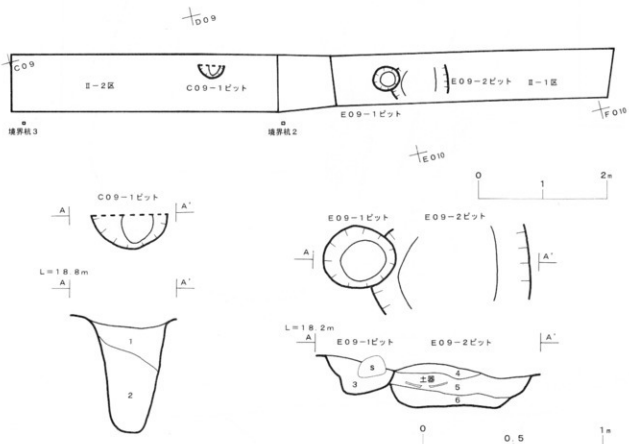
2　Ⅱ区発見遺構（第16図．写真図版３－３）

C09-1 ピット（第16図・第５表．写真図版３－４）

C09 の地山面において検出した。平面形は円形で、規模は開口部で57cm、底部は18cm、深さ83cmである。底面は平坦で、壁は急傾斜に立ち上がる。埋土は２層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片３点があるが割愛した。

E09-1 ピット（第16図・第５表）

E09 グリットの地山面において検出した。E09-2 ピットを切る。平面形は楕円形で、規模は、開口部で長軸40cm・短軸34cm、底部の長軸24cm・短軸21cm、深さ22cmである。底面は平坦で、壁は、



第16図　C09－1ピット・E09－1ピット・E09－2ピット

第5表　C09－1ピット・E09－1ピット・E09－2ピット土層観察表

層名	土　色	性　状
1	10YR 3/2　黒褐色	炭化物・焼土無し。土器片微量に含む。粘性は弱い。固さはやや柔い。
2	10YR 4/1　褐灰色	炭化物・焼土無し。土器片微量に含む。粘性は弱い。固さは柔い。真砂を部分的に含む。
3	10YR 3/4　暗褐色	炭化物・焼土無し。礫有り。粘性は無し。固さは柔い。真砂を微量に含む。サラサラしている。
4	10YR 4/4　褐色	炭化物・焼土・遺物無し。粘性は無し。固さは柔い。真砂を微量に含む。サラサラしている。
5	10YR 3/4　褐色	炭化物微量。焼土無し。土器片微量。粘性は無し。固さは柔い。真砂を微量に含む。サラサラしている。
6	10YR 4/4　褐色	炭化物・焼土・遺物無し。粘性は無し。固さは柔い。真砂を微量に含む。サラサラしている。

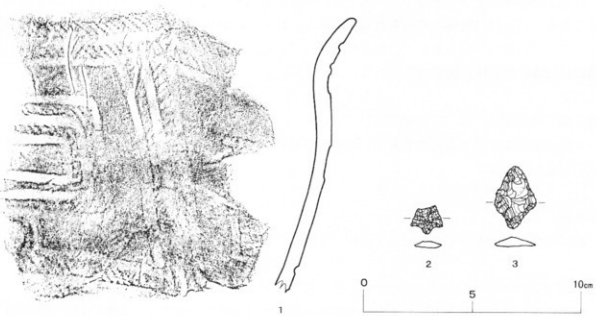
北東壁では緩やかに傾斜している。埋土は９層からなり自然堆積である。底面は北西方向に傾斜している。壁は南壁は緩やかに傾斜し、北壁では下位は直壁状に立ち上がり、上位は緩やかに傾斜している。埋土は１層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片２点があるが割愛した。

E09-2 ピット（第16図・第５表）

未調査区へ広がる。E09-1 ピットに切られる。平面形は不明で、規模は、開口部で89cm、底部で54cm、深さ25cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに傾斜している。埋土は３層からなり自然堆積である。

［出土遺物］（第17図・写真図版４）

出土遺物はは土器片15点（うち口縁部片１点）と、石鏃２点がある。土器片１点と石鏃２点を図示した。１は波状口縁をなす深鉢の口縁部片である。口縁は頸部で締まり外反している。文様は、口縁には口縁の形状に沿った横位の沈線を二条有し、充填縄文が施されている。頸部から体部にかけては、数条の平行沈線と充填縄文によって区画文が描かれている。２・３は有茎の石鏃である。２は基部が平基をなすもので、身部の半分は欠損する。３は基部が尖基をなすもので、身部は二等辺三角形状をなし、側縁は外弧をなしている。両面に一次剥離痕を残す。



第17図　E09-2ピット出土遺物

第6表　ピット出土石器一覧表

図　版	ピット番号	器　種	石　材	長　さ	幅	厚さ	重さ	登録番号
第９図７、写真図版４	BO２－１	石鏃	チャート	19.5	17.0	7.0	1.80	10274
第９図８、写真図版４	BO２－１	石鏃	チャート	19.4	15.4	3.0	0.60	10333
第９図９、写真図版４	BO２－１	石刃	チャート	23.4	12.8	5.0	1.50	10247
第10図10、写真図版４	BO２－１	不定形石器		31.2	24.6	8.9	7.30	10909
第13図９、写真図版４	CO３－１	石鏃	黒曜石	16.2	10.4	2.0	2.50	10272
第13図10、写真図版４	CO３－１	石鏃	チャート	15.4	13.2	3.0	0.35	10273
第13図14、写真図版４	CO３－２	石鏃	チャート	25.9	15.9	3.0	0.50	10275
第13図15、写真図版４	CO３－２	石刃	チャート	39.8	30.0	13.0	15.00	10321
第14図５、写真図版４	CO３－３	石鏃	珪質頁岩	21.7	19.4	4.0	0.40	10276
第17図２、写真図版４	EO９－２	石鏃		13.7	14.5	3.2	0.65	10908
第17図３、写真図版４	EO９－２	石鏃		28.8	19.5	5.1	2.10	10907

Ⅴ　遺構外出土遺物

遺構外より出土した遺物は、土器・石器・動物遺存体がある。ここでは、Ⅰ区・Ⅱ区を一括し、出土遺物の概要に触れる。

1　土器

土器は、53cm×35cm×13cmのコンテナ５箱程が出土した。土器片の出土は、それほど多くないが、縄文時代前期～晩期・弥生時代・平安時代のものがある。以下、縄文時代前期のものを第Ⅰ群、中期のものを第Ⅱ群、後期のものを第Ⅲ群、晩期のものを第Ⅳ群、縄文時代の粗製土器を第Ⅴ群、弥生時代の土器を第Ⅵ群として取り扱う。

第Ⅰ群

縄文時代前期のものである。出土点数は少なく、細片が多い。

第１類（第20図12～16、写真図版5-12～16）

胎土に植物繊維を含むもので、大木１式に相当すると思われるものである。12～15は深鉢の体部片である。12・13は結節のある羽状縄文を有し、14・15は羽状縄文を持たない。16は深鉢の口縁部片である。口縁は平縁をなし、口縁部は外傾している。口唇部直下まで縄文が施文され(RL)、口唇部には原体の側面圧痕文を有している。

第２類（第20図17・18、写真図版5-17・18）

Ｓ字状連鎖文を有するものである。大木２Ｂ式に相当すると思われるものである。ともに深鉢の体部の細片である。

第Ⅱ群

縄文時代中期のものである。出土点数は少なく、細片であるため、モチーフは不明である。

第１類（第20図19～22　写真図版5-19・20、写真図版6-21～22）

大木７式に相当すると思われるものである。19～21は深鉢の口縁部片である。19・21は口縁部は幾分内湾し、肥厚している。文様は、19では原体の側面圧痕文と沈線を、21では沈線によって区画文が意匠される。20は口縁は平縁をなし外反し、口縁部文様帯に縦位の弧状沈線を有している。22は深鉢の体部片である。隆線と沈線によって文様が描かれている。

第２類（第20図23・24、写真図版6-23・24）

大木８Ａ式に相当すると思われるものである。23は深鉢の体部片で、原体の側面圧痕文により曲線文が描かれている。24は深鉢の口縁部片で、口縁に突起を有し、断面形は口縁は肥厚し頸部で外側に「く」の字状に屈折している。文様は、原体の側面圧痕文を有している。

第３類（第20図25～28、写真図版6-25～28）

大木８Ｂ式に相当すると思われるものである。25は深鉢の口縁部片で、口縁は平縁をなし、内湾している。口縁部文様帯には、横位の隆沈線を有している。26～28は深鉢の体部片で、隆沈線による渦巻き文を有している。

第４類（第20図29、写真図版6-29）

大木１０式に相当すると思われるものである。29は深鉢の体部片である。沈線と磨消縄文によって曲線文を描く。

第Ⅲ群

縄文時代後期のものである。出土点数は多く、第Ⅳ群とともに出土遺物の主体をなすものである。

第１類

縄文時代後期前葉のものである。ほとんどの資料が細片であるため、器形・文様のモチーフを知り得る資料は少ない。文様によって三つに細分した。

Ａ.（第20図30～第21図32、写真図版6-30～32）

門前式に相当すると思われるものである。30は深鉢の体部片である。沈線と充填縄文によって文様が描かれる。31・32は深鉢の中空突起である。同一個体のものと思われ、貫通孔・ボタン状貼付文・隆線・連鎖状浮線文を有している。

Ｂ.（第21図33～36、写真図版6-33～36）

数条の沈線によって直線文・弧状文を有するもので、八天遺跡第Ⅲ群第６類・立石遺跡第Ⅲ群第４類・貝鳥貝塚第Ⅱ群第３類に相当するものである。33は口縁部片である。口縁は波状口縁をなし、幾分内湾している。口縁部文様帯には二条の横位沈線が巡り、体部には盲孔を中心に弧状の沈線が施文されている。34・35は深鉢の体部片である。弧状の沈線が描かれる。36は口縁部突起である。断面形は外側に肥厚し、隆線・ボタン状貼付文・沈線を有している。

Ｃ.（第18図１・第21図37～第22図51、写真図版5-1 、6-37～7-51）

数条の平行沈線と磨消縄文による幅の狭い帯状文を、直線状あるいは曲線状に展開し、区画文を意匠するもので、東北北部の十腰内Ⅰ式や大湯式に近似するものである。１は壺の口縁部片である。口縁は平縁をなし、突起を有している。口縁の断面形は、外反ぎみに大きく開いている。文様は、口縁部の上位には口縁に沿って三条の沈線が巡り、沈線間には縄文が充填され、下位は無文である。37～50は深鉢の口縁部片である。口縁は、37・41・49は波状口縁、39・40・42～45・48・50は山形口縁、38・47・52は平縁をなす。口縁の断面は、すべて外反している。文様は、口縁部には口縁の形状に沿って数条の横位沈線が施文され、体部には沈線と充填縄文によって曲線文が描かれるが、細片のためモチーフは不明である。40・43・44・48では内面にも沈線が施され、38・41では「く」の字状の文様、49では弧状の文様を有している。51は、深鉢の体部片である。平行する沈線と充填縄文によって三角形状の文様が意匠されている。

第２類（第22図52～58、写真図版7-52～58）

縄文時代後期中葉のものである。出土点数は少ない。54・57は深鉢の口縁部片である。ともに口縁は波状口縁をなし、断面形は外反している。文様は、54では沈線による円文を有し、円文の内側には沈線に沿って刺突が施されている。57は口縁の形状に沿って横位沈線が巡り、口縁部には刺突文が充填されている。53・55・58は深鉢の体部片である。53は沈線による円文を有し、内側には刻みが施されている。55・58は平行する横位沈線を有するもので、沈線間には縄文が充填される。52は壺の頸部片である。頸部は「く」の字状に屈折し、刺突の施された横位隆線が一条巡っている。

第３類（第22図59～第23図71、写真図版7-59～8-71）

縄文時代後期後葉のものである。出土点数は多い。文様は、入り組み文を有し、入り組み文内には、59～63では縄文が充填され、71は無文、他は刻みが充填されている。59・60～62・64は貼瘤を有している。59～61・63～66・70・71は深鉢の口縁部片である。口縁は平縁をなし、71では刻みのある突起、70は二個一対の角状突起を有している。口縁の断面形は、59・60・61・65・66・70は内湾で、63・64は外傾し、65は口唇部が膨れ、66は外側に肥厚し、64は口唇部の内側を削っている。62・67・69は深鉢の体部片で、62では二段、等間隔に貼瘤を有している。

第Ⅳ群

縄文時代晩期のものである。出土点数は多い。

第１類（第18図５・６、第23図72～第24図83、写真図版5－5・6、8-72～83）

大洞Ｂ式に相当するもので、玉抱き三叉文、三叉文等を有するものである。５・６は壺の体部片である。体部は球状に膨らみ、中央部に二条の沈線が巡り、体部上半の文様帯と下半の地文部とを区画している。体部上半には沈線と充填縄文によって、曲線文と菱形状の文様が意匠されている。72・73・82・83は鉢の口縁部片である。口縁は72は平縁をなし、73・83は小波状口縁、82は波状口縁をなしている。口縁の断面は内湾である。文様は72は沈線と充填縄文によって文様が意匠され、73・82では口縁部文様帯には三叉文が描かれ体部は無文で、83では口縁部文様帯には三叉文が施文され、頸部に横位沈線が巡り体部地文部とを区画している。74～81は深鉢の口縁部片である。口縁は、74・78・81は平縁で、74では山形突起を有し、77・80は波状口縁を呈している。75・76は山形突起で、75は頂部に刻みを持ち、76では二個一対の突起となっている。口縁部の断面形は、74・77・78・80・81は内湾、75・76・79は外反している。

第２類（第19図７～９、第24図84～第26図103 、写真図版5-7 ～9 、8-84～9-103 ）

大洞ＢＣ式に相当すると思われるものである。７は、壺の頸部から体部上半にかけてのものである。頸部には沈線による弧状の文様が施され、体部には充填縄文と沈線による曲線文が描かれる。８は注口土器の体部下半から底部にかけてのものである。沈線による曲線文が描かれる。９は鉢の口縁部から体部中央にかけてのものである。口縁は平縁をなし、断面形は内湾である。口唇には小突起を有し、口縁部文様帯には、刻み目を二段、横位沈線を二条有しており、横位沈線は体部地文部とを区画している。84・86～91・93・94・97・98・101 は鉢の口縁部片、85は体部片である。口縁は、84・90は小波状口縁、101 は波状口縁をなし、他は平縁をなす。口縁の断面形は、87は頸部で締まり外反し、他は内湾である。口唇には、86・87・91・93・98・103 では刻みを有する小突起をもち、97では刻みを有し、94では幅の狭い文様帯に羊歯縄文が施文される。体部には地文が施文

され、口縁部文様帯とは一～二条の横位沈線によって区画されている。92は注口土器の体部片で「く」の字状に屈折している。99・100 ・103 は注口土器の口縁部片である。口縁は平縁をなし、100 ・103 は刻みのある突起を有している。口縁の断面形は99は内湾、100 ・103 は内傾である。102 は壺の体部片である。充填縄文によって曲線文が意匠される。95・96は香炉型土器の脚部資料である。同一土器で、表面からの円形・三叉状の貫通孔を有している。

第３類（第26図104 ～第27図111　写真図版9-104 ～10-111）

大洞Ｃ１式に相当すると思われるものである。104 ・111 は浅鉢の口縁部資料、105 は浅鉢の口縁～底部にかけての資料である。口縁は平縁をなし、断面形は104 ・105 は内湾、111 は外傾である。104 は口唇部に二個一対の突起と刻みを有している。105 は口縁部文様帯に一条の横位沈線と刻みが、体部文様帯には充填縄文と沈線によって曲線文が描かれる。111 は口唇部の内側が肥厚しており、一条の沈線を有する。107 は浅鉢の底部片で、底部外面にも文様が描かれる。108 ・109 は壺の体部片である。109 では横位の沈線が二条巡り地文部とを区画している。110 は注口土器の肩部である。沈線による曲線文を有する。106 は鉢の口縁部片である。口縁は平縁をなし、断面形は内湾で、口唇部には刻みを有する。口縁部文様帯には、横回転のRLの縄文が施文され、その上に横位の弧状沈線と二条の横位沈線が描かれる。横位沈線は、体部地文部とを区画している。

第４類（第27図112 、写真図版10-112）

大洞Ｃ２式に相当すると思われるものである。出土数は少ない。112 は鉢の口縁部資料である。口縁は平縁をなし、角状の突起を有している。口縁部の断面は、頸部で若干締まり外反している。口唇には一条の沈線が巡っている。文様は、口縁部文様帯は無文で、体部には幅の狭い体部文様帯を有し、体部文様帯には横位の弧状沈線が施文され、弧状沈線の内側には刺突が施されている。口縁部無文帯と体部文様帯は一条の横位沈線によって区画されている。

第５類（第27図113 ～第28図117 、写真図版10-113～117 ）

大洞Ａ式に相当すると思われるものである。出土数は少ない。113 は浅鉢の口縁部片である。口縁は山形口縁をなし、断面形は内湾である。口唇部に一条の沈線を有している。口縁部文様帯には変形工字文が施文される。114 は鉢の体部片である。工字状の浮線文を有している。115 ～117 は口縁部文様帯に矢羽根状の文様を有するものである。116 は深鉢の口縁部片で、口縁は平縁をなし、口縁の断面形は外傾をなす。口縁部には幅の狭い口縁部文様帯を有し、体部には地文が施文される。口縁部文様帯と体部地文部は二条の横位沈線によって区画されている。115 ・117 は鉢の頸部から体部下半にかけてのものである。体部は無文で、口縁部文様帯とは三条の沈線によって区画されている。

第６類（第28図118、写真図版10-118）

大洞Ａ´式に相当すると思われるものである。出土数は少ない。118 は浅鉢の口縁部片である。口縁は平縁をなし、断面形は内湾である。口縁に沿って、三条の沈線と貼り瘤を有している。

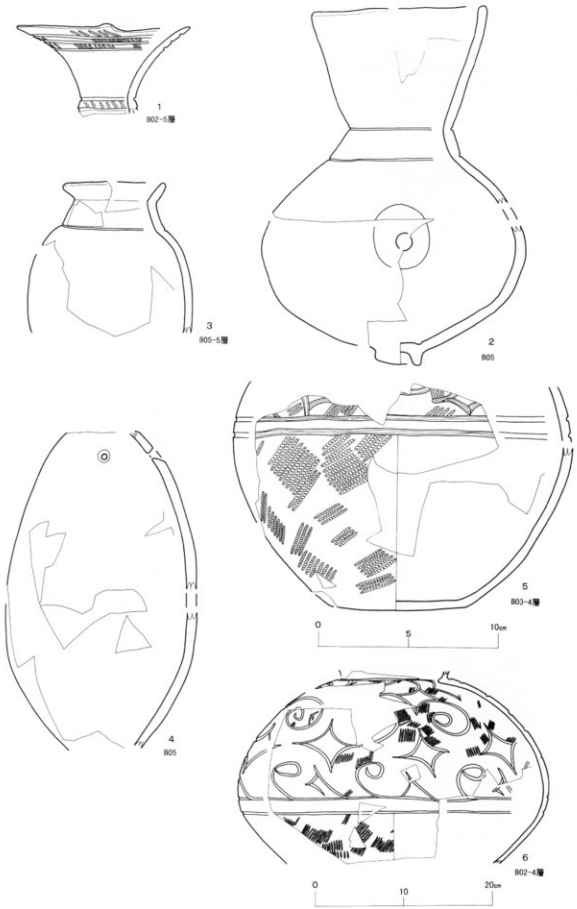
第Ⅴ群（第18図２～４、第19図10・11、第28図121 ～127 、写真図版5-2 ～4 ・10・11、10-121～127 ）

無文のため形式不明のものと、粗製土器を一括した。２～４は無文の土器で、縄文時代後期末～晩期にかけてのものと思われるものである。２は注口土器、３・４は壺である。２は口縁部から底部にかけてのもので、口縁は平縁をなし、外傾ぎみに開く。口縁部は全体の１／３程を占める。頸部は若干膨れ、極く浅い沈線によって、口縁部と体部とを区画している。体部は球状に膨らみ体部中央で最大幅を測り、注口部がつく。底部はすぼみ、極く小さな高台が付く。３は壺の口縁部から体部中央にかけてのものである。口縁は平縁をなし、断面は頸部で「く」の字状に屈折し、外傾している。体部との境には浅い沈線が一条巡り区画されている。体部上半で最大幅を測る。４は壺の体部のもので口縁部と底部を欠く。三個の貫通孔を有している。10は深鉢の口縁部から体部下半、11は深鉢の口縁部から体部上半、121 ～127 は深鉢の口縁部片である。口縁は平縁をなし、口縁部の断面形は10・11・121 ・123 ・124 ・127 は内湾し、122 ・125 ・126 は頸部で締まり外反している。文様は、122 ・125 ・126 では、口縁部無文帯を有し、126 では沈線が、122 ・125 では原体の側面圧痕文を有している。

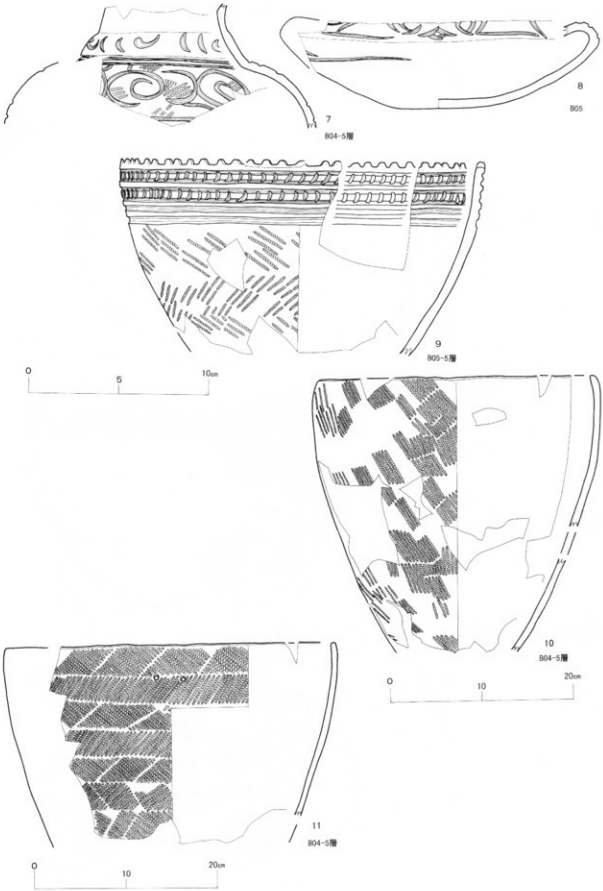
第Ⅵ群（第28図119 ～120 、写真図版10-119～120 ）

弥生土器である。出土点数は非常に少ない。119 は浅鉢の口縁部片である。口縁は平縁をなし、断面形は外反である。口縁部文様帯には変形工字文を有し、内面にも口唇に沿って横位沈線を二条有している。120 は深鉢の口縁部から体部にかけてのものである。口縁は平縁をなし、小突起を有している。口縁の断面形は、頸部で締まり外反する。文様は、口唇部には刻みが施され、口縁部文様帯には変形工字文が、体部には地文が施文されている。

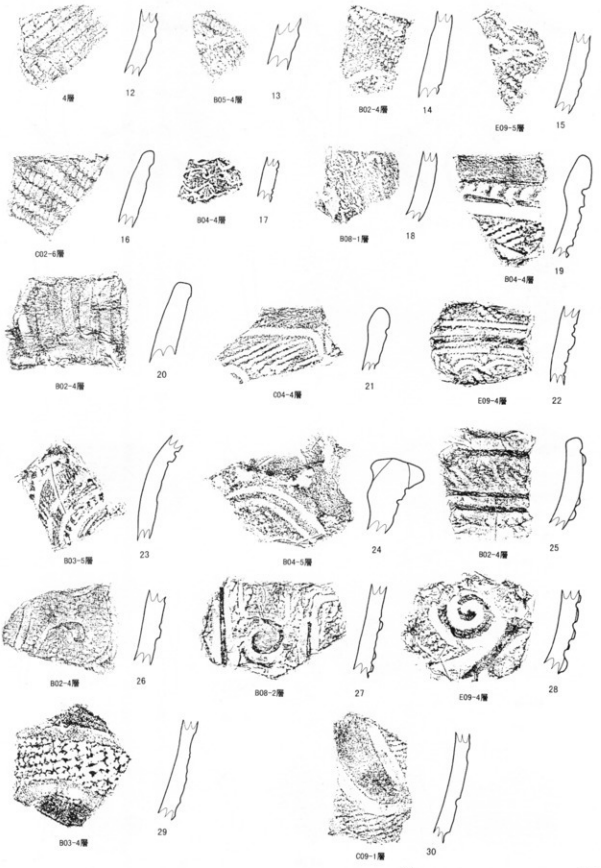
そのほか、土偶の脚部が１点出土している。径1.2 cm、長さ2.7 cmの円筒状で、先端に足首を模したと思われる沈線が一条入る。胎土は密であり、径0.5 mm～１mmの砂粒を含む。色調は赤橙色を呈し、焼成は良好である。



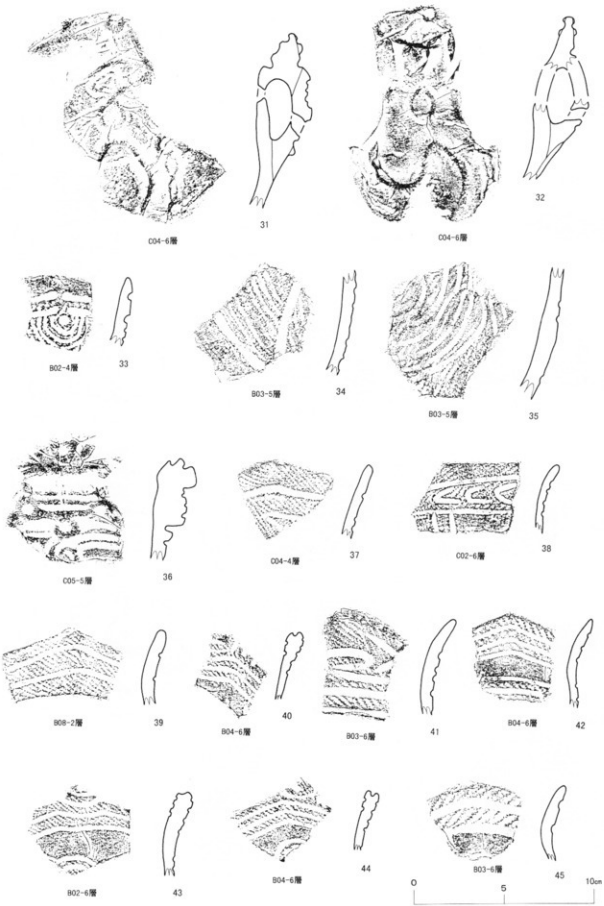
第18図　遺構外出土土器



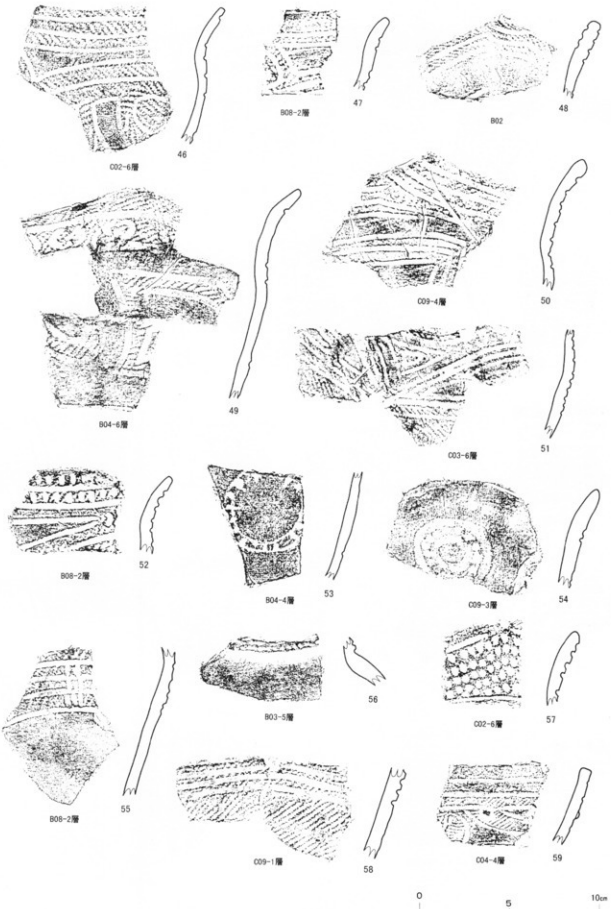
第19図　遺構外出土土器



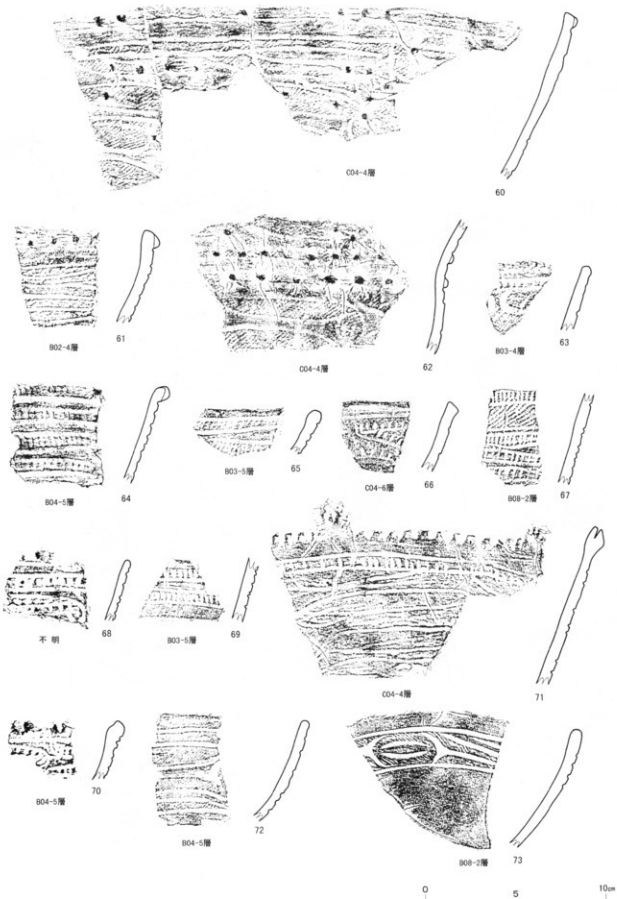
第20図　遺構外出土土器



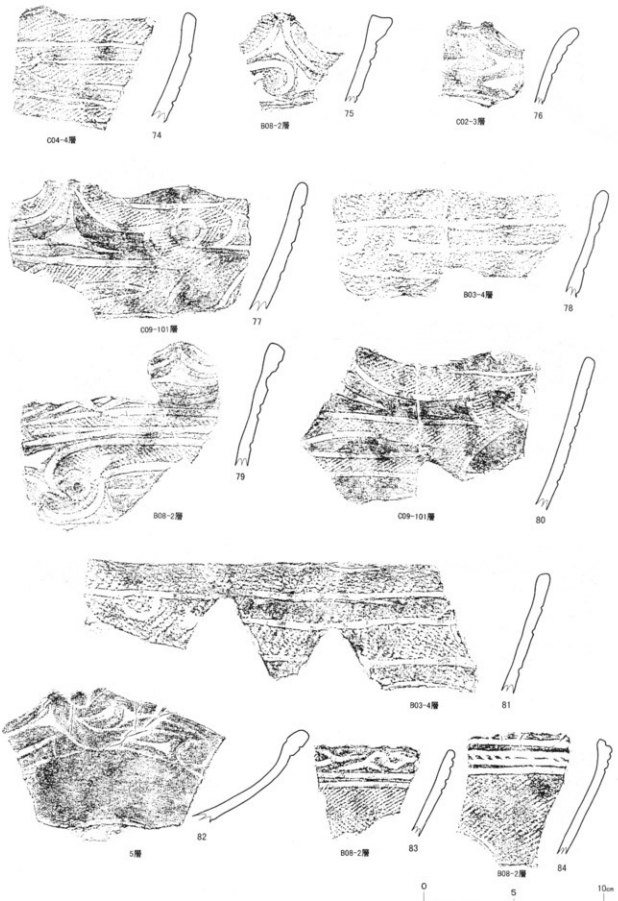
第21図　遺構外出土土器



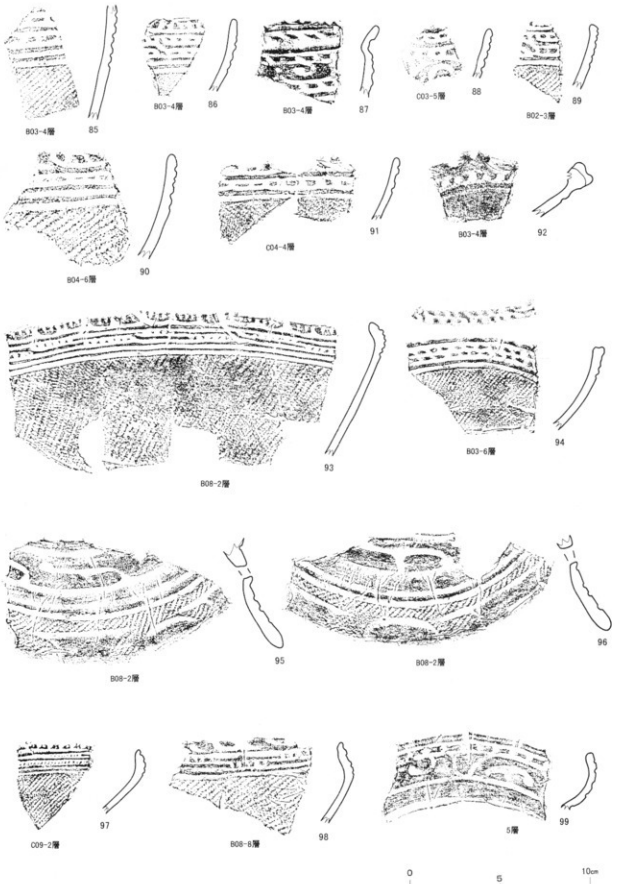
第22図　遺構外出土土器



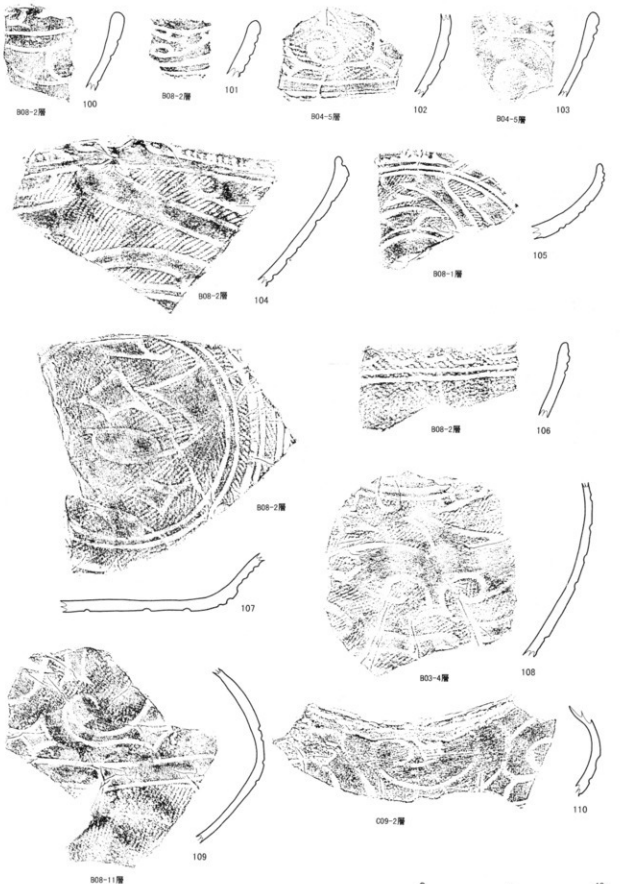
第23図　遺構外出土土器



第24図　遺構外出土土器

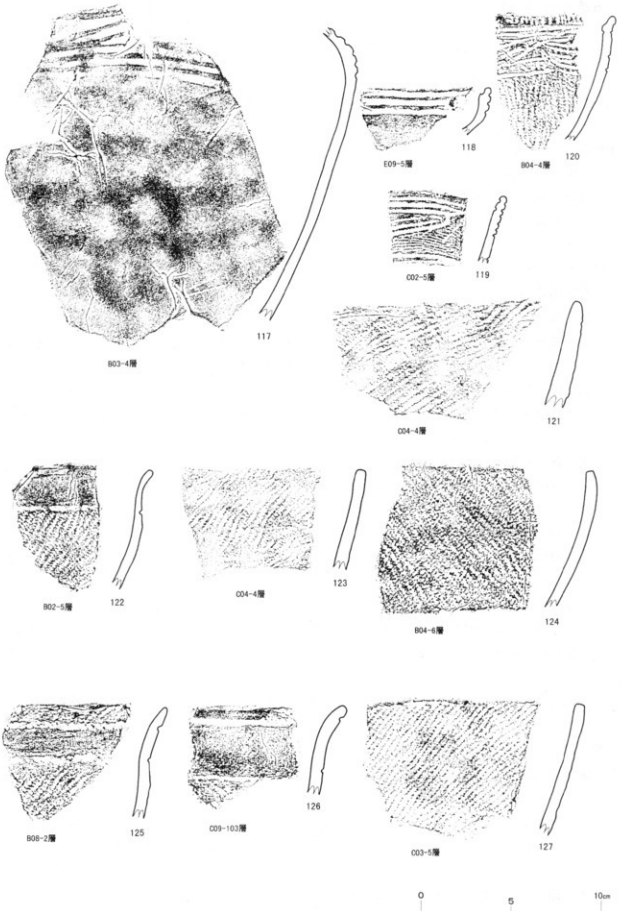


第25図　遺構外出土土器



第26図　遺構外出土土器

第27図　遺構外出土土器



第28図　遺構外出土土器

2　石器（第29図～31図、写真図版11～14、第７・８表）

出土した石器は、石鏃45点・尖頭器３点・石錐11点・石匙１点・不定形石器38点・磨製石斧５点・石皿３点・敲石１点・石製円盤５点・礫石器３点・打製石斧１点・凹石１点・石棒10点・磨石１点・石製品２点の、総計130点である。以下、器種ごとに説明を行う。

（１）石鏃（第29図128～150、写真図版11－128～172）

石鏃は欠損品・未製品の８点を含めて45点出土した。石質はチャート37点（82％）・珪質頁岩４点（９％）・　細粒砂岩４点（９％）である。茎部の有無、基部の形状、側縁の形状によって細分が可能である。

第１群（第29図128～138、写真図版11－128～145）

有茎の石鏃である。18点出土した。

第１類（第29図128、写真図版11－128・129）

基部が平基をなすもの。２点出土した。身部は二等辺三角形状をなし、側縁が外弧をなすもの（128、写真128）・直線的なもの（写真129）がある。

第２類（第29図129、写真図版11－130）

基部が凹基をなすもの。１点出土した。身部は二等辺三角形状をなし、側縁が外弧をなす。茎部は身部の長さより短い。

第３類（第29図130～136、写真図版11－131～142）

基部が尖基をなすもの。12点出土した。身部は二等辺三角形状をなし、側縁が外弧をなすもの（130～134・写真132～138）・直線的なもの（135・136、写真140・142）がある。

第４類（第29図137、写真図版11－143・144）

基部が円基をなすもの。２点出土した。身部は二等辺三角形状をなし、側縁が基部付近で膨らむ。

第５類（第29図138、写真図版11－145）

基部と茎部の境が不明瞭なもの。１点出土した。身部は二等辺三角形状をなし、側縁が直線的である。

そのほか、身部が二等辺三角形状をなし、基部が欠損しているもの（写真143）がある。

第２群（第29図139～148、写真図版11－146～164）

無茎の石鏃である。19点出土した。

第１類（第29図139、写真図版11－146～148）

基部が平基をなすもの。３点出土した。身部が正三角形状をなし、側縁が内弧をなすもの（写真146）・身部が二等辺三角形をなし、側縁が外弧をなすもの（139、写真147）がある。

第２類（第29図140～146、写真図版11－149～162）

基部が凹基をなすもの。14点出土した。身部の形状は１点（写真149）のみ正三角形状で、他は二等辺三角形状である。側縁の形状は、外弧をなすもの（140～144、写真149・152）

と基部付近で膨らむもの（145、146、写真158～160）がある。基部の抉りには、身部中央付近まで抉れるもの（143）もみられる。

第３類（第29図147、写真図版163）

基部が尖基をなすもの。１点出土した。

第４類（第29図148、写真図版164）

円基をなすもの。１点出土した。

第３群（第29図149・150、写真図版11－165～172）

欠損により形状不明のもの（写真168～172）、未製品（149・150、写真165～167）を一括した。

（２）尖頭器（第29図151～153、写真図版11－173～175）

３点出土した。基部の形状は、平基をなすもの（151写真173）と円基をなすもの（152・153、写真174・175）がある。身部の形状はすべて二等辺三角形状で、側縁は外弧をなす。

（３）石錐（第29図154～162、写真図版11－176～186）

11点出土した。頭部欠損のもの（154・155、写真176～179）、頭部と身部が明瞭に区分されるもの（156～158、写真180～182）、頭部をもたないもの（159、写真183 ）、頭部と身部が不明瞭なもの（160～162、写真184～186）がある。

（４）石匙（第29図163、写真図版11－187）

１点出土した。横長の石匙で、片刃の刃を１辺に持っている。

（５）不定形石器（第29図164～182、写真図版11－188～190、12－191～223、13－224・225）

不定形石器は38点出土し、石鏃に次いで数が多い。刃の数・形状によって細分が可能である。

第Ⅰ群（第29図164～174、写真図版11－188～190・12－191～207）

１辺に刃を有するもの。10点出土した。刃には、片刃のもの（164～171、写真188～199）・両刃のもの（172～174、写真200～207）がみられ、刃の形状は丸みを帯びるもの・直線的なものがある。

第Ⅱ群（第29図175～177、写真図版12－208～216）

２辺に刃を有するもの。９点出土した。刃には、片刃のもの（写真208・209）・両刃のもの（写真210～212）・一辺が片刃で、他は両刃のもの（175～177、写真213～216）がある。刃の形状は丸みを帯びるもの・直線的なもの・一辺にノッチを有し、他辺に丸みを帯びるものがある。

第Ⅲ群（第29図178・179、写真図版12－217・218）

全周に刃を有するもの。２点出土した。刃は両刃で刃の形状が楕円形のものである。

第Ⅳ群（第29図180～182、写真図版12－219～222）

両極剥離によるもの。４点出土した。

第Ⅴ群（写真図版12－223、13－224・225）

マイクロフレーキングを有するもの。３点出土した。

（６）磨製石斧（第30図183～185、写真13－226～230）

５点出土した。すべて欠損品である。

（７）磨石（第30図186、写真図版13－231）

１点出土した。形状は楕円形で、使用面が平坦になっている。使用痕は擦痕、研磨痕があるが、敲打痕は顕著には見られない。

（８）石皿（第30図187・188、写真図版13－232～234）

３点出土した。187は中高石皿で、凹みの中央部に島状の高みを残すものである。188は大型の石皿の一部が残存するものである。写真234は足付きの石皿の欠損品である。

（９）敲石（第30図189、写真図版13－235）

１点出土した。自然礫を利用したもので、先端の面に敲打痕と擦痕を、平坦面に擦痕を残す。

（10）石棒（第30図190～196、写真図版13－236～241、14－242～245）

10点出土した。全体を加工しているもの（190から194、写真236～242）・部分的に加工しているもの（195・196、写真243～245）がある。全周が残るものは５点・全周が残らない破片は５点である。192・194・写真238は加工の際付いたと思われる敲打痕を残す。196は縦長の自然礫を研磨している。193は背に一乗の溝が入れられている。

（11）石製品（第31図197、写真図版14－246・247）

２点出土した。197は軽石に両面から穿孔されている。写真247は偏平な珪質粘板岩の両面を磨き、側縁の両側に抉りが入る。

（12）石製円盤（写真図版14－248～252）

５点出土した。偏平な礫の両面を打ち欠き、円形・楕円形に整形したものである。研磨は施されていない。

（13）礫石器（第31図198～200、写真図版14－253～255）

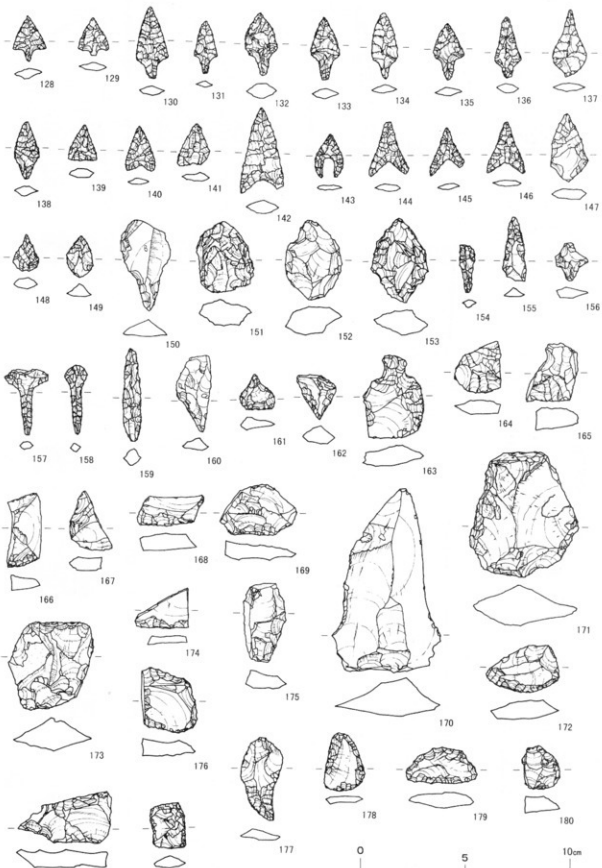
３点出土した。偏平な礫の両面を打ち欠き、刃を設けたものである。200は、平坦面に擦痕を有する。

（14）打製石斧（写真図版14－256）

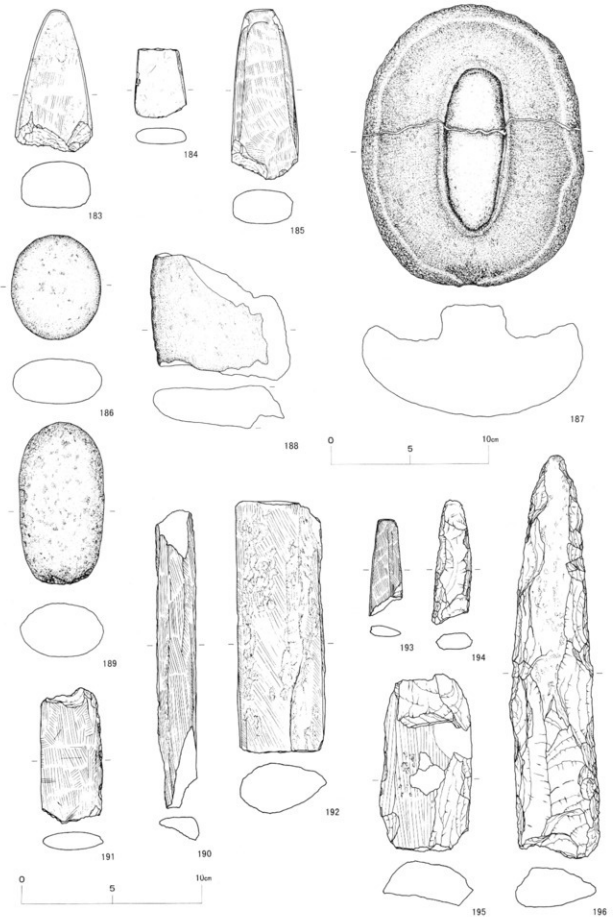
１点出土した。欠損品で、両面剥離が行なわれている。

（15）凹石（第31図201、写真図版14－257）

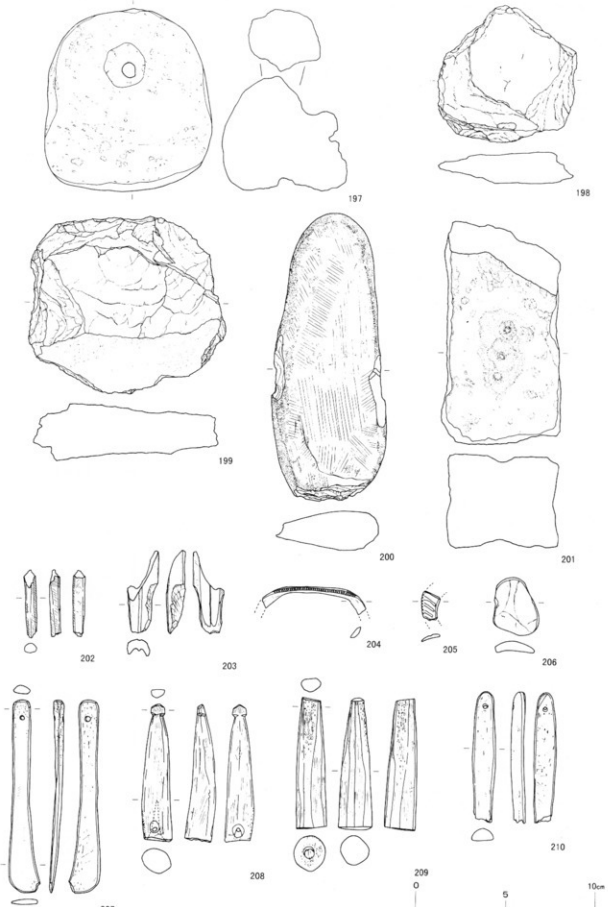
１点出土した。自然礫に凹みを有するものである。



第29図　遺構外出土石器



第30図　遺構外出土石器



第31図　遺構外出土石器・骨角器

第7表　遺構外出土石器一覧表

図　版	写真図版	地点	層	器　種	分　類	石　材	長　さ	幅	厚さ	重さ	登録番号
	写真図版11－128	B-3	3	石鏃	第1群第1類	チャート	20.0	15.1	4.0	0.80	10282
第29図128	写真図版11－129	B-4	4	石鏃	第1群第1類	チャート	21.9	15.4	4.0	0.80	10277
第29図129	写真図版11－130	C-4	4	石鏃	第1群第2類	細粒砂岩	17.9	13.8	4.0	0.30	10298
	写真図版11－131	B-4	6	石鏃	第1群第3類	チャート	23.9	13.4	4.0	0.95	10270
第29図130	写真図版11－132	B-4	4	石鏃	第1群第3類	チャート	34.1	15.2	4.0	1.65	10278
第29図131	写真図版11－133	B-5	4	石鏃	第1群第3類	細粒砂岩	24.8	10.9	4.0	0.60	10284
	写真図版11－134	C-3	3	石鏃	第1群第3類	チャート	24.0	15.8	4.0	1.00	10287
第29図132	写真図版11－135	C-3	4	石鏃	第1群第3類	チャート	29.8	15.2	7.0	2.30	10292
	写真図版11－136	C-4	6	石鏃	第1群第3類	チャート	24.8	10.2	4.0	0.80	10301
第29図133	写真図版11－137	II-1	1	石鏃	第1群第3類	チャート	30.0	13.7	5.0	1.25	10340
第29図134	写真図版11－138	II-1	101	石鏃	第1群第3類	細粒砂岩	31.2	12.2	6.0	1.20	10341
	写真図版11－139	B-3	6	石鏃	第1群第3類	珪質頁岩	21.7	13.9	4.0	1.10	10283
第29図135	写真図版11－140	B-4	5	石鏃	第1群第3類	チャート	26.8	14.4	4.4	1.05	10279
	写真図版11－141	II-1	3	石鏃	第1群第3類	チャート	22.4	15.0	4.0	1.30	10339
第29図136	写真図版11－142	II-3	2	石鏃	第1群第3類	チャート	40.0	12.4	4.0	1.20	10342
	写真図版11－143	C-3	4	石鏃	第1群第4類	チャート	14.4	10.0	4.0	0.40	10291
第29図137	写真図版11－144	B-3	4	石鏃	第1群第4類	チャート	31.8	16.8	5.0	1.50	10336
第29図138	写真図版11－145	B-5	不明	石鏃	第1群第5類	チャート	26.7	11.6	5.0	1.20	10269
	写真図版11－146	C-4	4	石鏃	第2群第1類	珪質頁岩	25.7	14.8	3.0	0.90	10329
	写真図版11－147	C-2	4	石鏃	第2群第1類	チャート	24.2	14.7	6.0	1.65	10285
第29図139	写真図版11－148	C-2	2	石鏃	第2群第1類	細粒砂岩	17.1	13.3	3.0	0.70	10331
	写真図版11－149	B-3	3	石鏃	第2群第2類	チャート	15.2	14.2	5.0	0.90	10334
	写真図版11－150	B-2	3	石鏃	第2群第2類	チャート	17.2	11.9	3.0	0.40	10281
第29図140	写真図版11－151	B-2	4	石鏃	第2群第2類	チャート	21.4	13.7	3.0	0.55	10280
	写真図版11－152	C-4	4	石鏃	第2群第2類	チャート	15.4	7.2	3.0	0.35	10295
第29図141	写真図版11－153	C-4	4	石鏃	第2群第2類	チャート	20.6	14.8	4.0	0.90	10299
第29図142	写真図版11－154	B-5	5	石鏃	第2群第2類	チャート	41.0	20.7	6.0	3.30	10332
	写真図版11－155	A区	2	石鏃	第2群第2類	チャート	25.6	16.2	5.0	1.50	10337
第29図143	写真図版11－156	B-2	3	石鏃	第2群第2類	チャート	20.6	13.2	3.0	0.40	10313
第29図144	写真図版11－157	C-4	3	石鏃	第2群第2類	チャート	24.4	18.3	3.0	0.65	10294
	写真図版11－158	B-3	4	石鏃	第2群第2類	チャート	17.7	18.4	4.0	0.80	10335
	写真図版11－159	B-3	4	石鏃	第2群第2類	チャート	13.8	15.0	3.0	0.50	10338
	写真図版11－160	B-3	4	石鏃	第2群第2類	チャート	17.0	16.6	5.0	0.90	10343
第29図145	写真図版11－161	C-4	3	石鏃	第2群第2類	チャート	22.8	16.2	3.0	0.30	10293
第29図146	写真図版11－162	B-3	4	石鏃	第2群第2類	チャート	24.0	23.6	3.0	0.60	10330
第29図147	写真図版11－163	C-4	4	石鏃	第2群第2類	チャート	32.2	18.5	5.0	1.70	10344
第29図148	写真図版11－164	C-4	5	石鏃	第2群第4類	チャート	17.4	12.8	6.0	0.80	10297
	写真図版11－165	不明	表採	石鏃未製品	第3群	珪質頁岩	32.4	16.4	7.2	3.00	10911
第29図149	写真図版11－166	B-4	6	石鏃未製品	第3群	チャート	19.0	12.0	7.0	1.20	10244
第29図150	写真図版11－167	B-2	4	石鏃未製品	第3群	珪質頁岩	43.4	22.8	4.0	2.70	10349
	写真図版11－168	C-2	5	石鏃欠損品	第3群	チャート	26.4	12.0	4.0	0.80	10286
	写真図版11－169	C-3	4	石鏃欠損品	第3群	チャート	15.1	10.0	4.0	0.30	10288
	写真図版11－170	C-3	4	石鏃欠損品	第3群	チャート	26.2	24.9	6.0	3.50	10289
	写真図版11－171	C-3	4	石鏃欠損品	第3群	チャート	11.1	13.2	4.0	0.30	10290
	写真図版11－172	C-4	4	石鏃欠損品	第3群	チャート	8.4	15.0	4.0	0.45	10295
第29図151	写真図版11－173	B-2	4	尖頭器		チャート	33.2	26.3	11.0	10.00	10352
第29図152	写真図版11－174	B-3	4	尖頭器		珪質頁岩	32.5	26.5	13.0	11.90	10353
第29図153	写真図版11－175	II-3	1	尖頭器		珪質頁岩	39.5	26.8	12.0	9.10	10354
第29図154	写真図版11－176	不明	不明	石錐		チャート	22.3	6.7	4.0	0.60	10314
第29図155	写真図版11－177	不明	不明	石錐		珪質頁岩	30.5	15.6	6.0	1.30	10271
	写真図版11－178	B-3	4	石錐		チャート	17.4	6.6	3.0	0.40	10315
	写真図版11－179	B-3	4	石錐		チャート	11.4	2.8	3.0	0.10	10316
第29図156	写真図版11－180	B-5	4	石錐		珪質頁岩	17.8	16.1	5.0	1.00	10317
第29図157	写真図版11－181	C-4	6	石錐		細粒砂岩	30.4	20.6	4.0	1.30	10318
第29図158	写真図版11－182	II-2	2	石錐		チャート	32.6	11.0	5.0	1.50	10351
第29図159	写真図版11－183	II-3	2	石錐		チャート	43.2	7.8	8.0	3.00	10350
第29図160	写真図版11－184	B-5	5	石錐		流紋岩	36.1	17.2	7.0	4.00	10255
第29図161	写真図版11－185	C-4	4	石錐		チャート	17.0	16.4	5.0	1.00	10300
第29図162	写真図版11－186	C-4	4	石錐		チャート	22.8	15.0	9.0	2.40	10324
第29図163	写真図版11－187	B-3	4	石匙		チャート	39.2	29.6	9.0	9.20	10356
第29図164	写真図版11－188	B-4	6	不定形石器	第1群	チャート	27.2	23.1	7.0	3.60	10245
第29図165	写真図版11－189	B-2	6	不定形石器	第1群	チャート	33.2	20.2	12.0	6.25	10251
第29図166	写真図版11－190	B-3	4	不定形石器	第1群	チャート	37.0	16.1	9.0	5.20	10252
	写真図版12－191	B-4	4	不定形石器	第1群	チャート	27.6	10.2	7.0	1.70	10253
第29図167	写真図版12－192	C-2	4	不定形石器	第1群	チャート	29.8	16.8	8.0	3.15	10258
第29図168	写真図版12－193	C-2	4	不定形石器	第1群	チャート	32.0	14.2	6.0	3.00	10260
	写真図版12－194	C-2	6	不定形石器	第1群	細粒砂岩	43.8	32.3	16.0	20.00	10320
第29図169	写真図版12－195	B-3	5	不定形石器	第1群	細粒砂岩	37.4	23.8	7.0	6.80	10323
第29図170	写真図版12－196	II-1	1	不定形石器	第1群	珪質頁岩	80.0	55.0	18.0	64.10	10328
第29図171	写真図版12－197	B-2	3	不定形石器	第1群	細粒砂岩	59.8	50.0	22.0	75.00	10365
	写真図版12－198	B-2	4	不定形石器	第1群	珪質頁岩	41.1	33.2	5.4	6.80	10910
	写真図版12－199	II-2	2	不定形石器	第1群	珪質頁岩	48.2	16.8	9.6	11.50	10913
第29図172	写真図版12－200	不明	不明	不定形石器	第1群	珪質頁岩	34.0	20.1	11.0	5.00	10241
第29図173	写真図版12－201	不明	不明	不定形石器	第1群	チャート	48.4	39.8	16.0	22.30	10243
	写真図版12－202	B-2	5	不定形石器	第1群	珪質頁岩	37.8	30.5	9.0	9.10	10249
	写真図版12－203	C-2	6	不定形石器	第1群	チャート	22.4	16.4	7.0	2.70	10261
	写真図版12－204	B-2	4	不定形石器	第1群	チャート	34.3	26.0	8.0	5.55	10248
	写真図版12－205	B-5	5	不定形石器	第1群	チャート	21.9	19.4	6.0	1.80	10257
	写真図版12－206	C-3	3	不定形石器	第1群	チャート	37.6	20.8	11.0	6.45	10262
第29図174	写真図版12－207	D-3	4	不定形石器	第1群	チャート	30.0	18.6	4.0	2.00	10268
	写真図版12－208	B-4	6	不定形石器	第1群	珪質頁岩	33.4	26.8	5.0	5.00	10246
	写真図版12－209	B-2	4	不定形石器	第1群	珪質頁岩	30.0	23.0	6.0	3.90	10322
	写真図版12－210	B-2	5	不定形石器	第1群	チャート	33.4	19.4	5.0	3.15	10250
	写真図版12－211	A区	3	不定形石器	第1群	細粒砂岩	55.8	25.1	12.2	10.80	10912
	写真図版12－212	C-3	4	不定形石器	第1群	チャート	19.2	14.8	3.0	0.85	10263

第8表　遺構外出土石器一覧表

図版	写真図版	地点	層	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	登録番号
第29図175	写真図版12－213	不明	不明	不定形石器	第Ⅱ群	細粒砂岩	36.8	19.8	7.0	7.80	10242
第29図176	写真図版12－214	C-3	5	不定形石器	第Ⅱ群	珪質頁岩	35.6	29.3	10.0	9.20	10265
	写真図版12－215	Ⅱ-1	4	不定形石器	第Ⅱ群	チャート	24.6	10.9	8.0	2.00	10226
第29図177	写真図版12－216	Ⅱ-1	5	不定形石器	第Ⅱ群	珪質頁岩	39.3	21.4	6.0	3.30	10327
第29図178	写真図版12－217	B-4	5	不定形石器	第Ⅱ群	細粒砂岩	27.1	19.2	3.0	2.00	10254
第29図179	写真図版12－218	C-3	4	不定形石器	第Ⅱ群	チャート	34.0	17.6	7.0	4.65	10267
第29図180	写真図版12－219	B-5	5	不定形石器	第Ⅳ群	チャート	20.4	18.4	7.0	2.50	10256
	写真図版12－220	C-3	6	不定形石器	第Ⅳ群	チャート	45.7	35.4	11.0	15.10	10266
第30図181	写真図版12－221	Ⅱ-2	1	不定形石器	第Ⅳ群	細粒砂岩	45.8	23.6	10.0	11.00	10325
第30図182	写真図版12－222	Ⅱ-2	1	不定形石器	第Ⅳ群	珪質頁岩	21.3	15.8	7.0	2.70	10355
	写真図版12－223	C-2	4	不定形石器	第Ⅴ群	チャート	17.8	16.7	4.0	1.00	10259
	写真図版13－224	C-3	5	不定形石器	第Ⅴ群	細粒砂岩	43.0	40.2	16.0	23.65	10264
	写真図版13－225	C-2	4	不定形石器	第Ⅴ群	チャート	31.6	20.6	9.0	3.10	10319
	写真図版13－226	B-5	不明	磨製石斧		閃緑岩	84.4	54.9	27.0	187.00	10304
第30図183	写真図版13－227	不明	不明	磨製石斧		閃緑岩	79.4	43.0	26.0	116.00	10305
第30図184	写真図版13－228	C-3	2	磨製石斧		珪質頁岩	38.8	29.0	11.0	21.40	10306
第30図185	写真図版13－229	不明	1	磨製石斧		細粒砂岩	95.0	38.6	21.0	126.00	10345
	写真図版13－230	B-3	4	磨製石斧		花崗岩質岩	104.9	47.2	28.0	172.00	10346
第30図186	写真図版13－231	Ⅱ-1	3	摩石		閃緑岩	57.4	49.6	27.0	122.00	10357
第30図187	写真図版13－232	不明	不明	石皿		溶結凝灰岩	162.4	133.3	73.0	1310.00	10370
第30図188	写真図版13－233	B-3	6	石皿		花崗岩質岩	78.3	63.4	23.1	151.00	10369
	写真図版13－234	C-4	不明	石皿		凝灰岩質岩	255.0	250.0	85.0	2680.00	10917
第30図189	写真図版13－235	Ⅱ-1	2	敲石		花崗岩	88.4	41.5	32.0	234.00	10358
	写真図版13－236	不明	不明	石棒		閃緑岩	26.0	32.0	28.0	32.50	10308
第30図190	写真図版13－237	B-2	4	石棒		粘板岩	162.8	22.4	11.0	56.10	10309
	写真図版13－238	B-2	5	石棒		細粒砂岩	106.9	42.6	13.0	69.00	10310
第30図191	写真図版13－239	C-3	3	石棒		細粒砂岩	74.2	34.1	11.0	38.50	10311
第30図192	写真図版13－240	7	5	石棒		粘板岩	136.8	47.0	28.0	307.00	10359
第30図193	写真図版13－241	C-2	4	石棒		細粒砂岩	53.5	18.4	8.0	9.00	10362
第30図194	写真図版13－242	Ⅱ-1	3	石棒		細粒砂岩	67.6	20.0	9.0	16.10	10372
第30図195	写真図版14－243	不明	不明	石棒		細粒砂岩	97.2	51.4	24.0	159.00	10307
第30図196	写真図版14－244	B-3	4	石棒		細粒砂岩	230.0	46.5	23.0	261.00	10360
	写真図版14－245	B-3	4	石棒		細粒砂岩	77.4	42.0	15.0	54.00	10361
第31図197	写真図版14－246	B-3	6	石製品		蛇石	90.0	91.6	65.0	121.00	10368
	写真図版14－247	C-3	4	石製品		珪質粘板岩	42.3	15.8	4.0	3.90	10367
	写真図版14－248	B-3	4	石製円盤		粘板岩	44.8	41.2	11.2	29.50	10312
	写真図版14－249	B-3	4	石製円盤		粘板岩	35.0	32.4	6.0	8.70	10347
	写真図版14－250	A区	1	石製円盤		細粒砂岩	37.1	35.3	10.0	16.50	10348
	写真図版14－251	C-4	3	石製円盤		粘板岩	27.8	26.0	3.6	3.70	10914
	写真図版14－252	Ⅱ-2	2	石製円盤		中粒砂岩	47.4	44.2	11.4	25.10	10915
第31図198	写真図版14－253	B-5	5	礫石器		粘板岩	74.0	76.8	19.0	126.00	10302
第31図199	写真図版14－254	C-4	6	礫石器		細粒砂岩	109.1	98.0	34.0	455.00	10303
第31図200	写真図版14－255	B-5	3	礫石器		細粒砂岩	157.6	62.9	23.0	324.00	10363
	写真図版14－256	B-5	不明	打製石斧		細粒砂岩	83.7	44.5	30.0	116.00	10364
第31図201	写真図版14－257	B-3	4	凹石		中粒砂岩	121.8	59.2	66.0	646.00	10366

第9表　出土骨角器一覧表

図版	写真図版	地区・層位	器種	材質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録No.
第31図202	写真図版15－258	Ⅱ－2　15	骨針	シカ中手or中足骨	36.3	6.5	5.1	0.9		906
第31図203	写真図版15－259	Ⅱ－2　15	骨針	シカ中手骨	45.0	16.9	8.7	3.3	前面利用	911
第31図204	写真図版15－260	Ⅱ－2　15	貝輪	アカガイ	56.1	5.4	1.7	1.8	左殻利用	908
第31図205	写真図版15－261	Ⅱ－2　15	貝輪	ベンケイガイ?	15.1	9.9	2.8	0.5		907
第31図206	写真図版15－262	D－2　3	貝製品	マガキ	31.1	24.4	5.7	5.6		909
第31図207	写真図版15－263	C－3　1	角　笏	種不明　角	105.0	16.1	4.7	4.8	基部に貫通孔を有する	905
第31図208	写真図版15－264	C－2　1	角釣針	鹿角	75.3	16.1	14.2	8.5	基部に貫通孔を有する	902
第31図209	写真図版15－265	C－3　1	角釣針	種不明　角	72.2	17.0	18.6	14.0	軸頭部欠損	903
第31図210	写真図版15－266	Ⅱ－1　1	不　明	種不明	71.0	11.5	6.4	5.1	先端部欠損	904

3　骨角器

出土した骨角器は、縄文時代の刺突具１点・骨篦１点・貝輪２点・貝製品１点、近代のものと思われるヘラ１点・角釣針２点・器種不明のもの１点がある。ここでは、縄文時代・近代のものに大別し、器種ごとに記載する。

(1) 縄文時代の骨角器

刺突具（第31図202・写真図版15－258）

シカの四肢骨（中手・中足骨）を打割し、さらに研磨をして成形を施したものである。202は先端部と基部を欠くが骨針状の刺突具と思われ、器面全体に擦痕を有している。

骨篦（第31図203・写真図版15－259）

203は骨篦の一部と思われ、シカの中手骨を横方向から打割して二分割し、前面を利用している。打割面のみを擦って面取りを施したもので、自然面を大きく残している。

貝輪（第31図204、205・写真図版15－260）

貝輪は２点出土している。204はアカガイ製のものである。アカガイの左殻の殻頂部周辺を擦り成形したもので、主歯は残存する。長さ58mm・最大幅８mm・最小幅５mm・厚さ２mm程である。205は、貝輪のごく一部分が残存する。長さ14mm・幅10mm・厚さ２mm程で、側縁のみ成形されている。表面に放射肋を残し、放射肋の形状からベンケイガイである可能性が高い。

貝製品（第31図206・写真図版15－261）

206はマガキ製の貝製品である。マガキの殻を不整の楕円形に成形したもので、側縁のみ成形されている。側縁には一部に打ち欠き痕を残し、他は研磨されている。

(2) 近代の骨角器

ヘラ（第31図207・写真図版15－262）

207は、裁縫用具のヘラと思われるものである。材質は不明で、器面の一部に海綿質を残す。象牙などを用いる場合があり、種同定には注意を要する。大きさは長さ10.5cm・幅1.6 cm・厚さ0.47cmであり、緩やかに湾曲している。基部には径３mm程の貫通孔を有している。

角釣針？（第31図208、209・写真図版15－263、264）

哺乳類の角を素材としているものである。208は縦長のもので緩やかに湾曲しており、形状からシカの角尖部である可能性が高い。軸頂部は左右から刻みを入れ瘤状に膨らみ、基部には、器面の上位から斜めに開けれた一対の貫通孔を有している。底面には、基部から軸部方向に海綿質をくり抜く直径５mm・長さ18mmの孔が開き、釣針を装着するためのものと思われる。また、底面には径0.5mm程の虫ピン状の金属針が一本刺さっている。器面は、全体的に金属器により削られ、縦方向の擦痕を有している。209は材質不明のものである。軸頂部は欠損する。底面は金属器により、ほぼ直角に切られ、底面から軸頂部方向に向かって長さ60mm程の木製の針が貫入している。器面は、全体的に金属器により削られ、縦方向の擦痕を有している。時期は、208・209とも大正14年生まれの地権者が見聞きしたことがないということなので、大正以前のものと思われる。

器種不明のもの（第31図210・写真図版15－265）

210は器種不明のものである。縦長のもので、頂部は丸みを帯び、径２㎜程の孔を有する。先端部は欠損する。断面形は、半円状である。器面全体研磨され、すべすべしている。

4　動物遺存体

出土した動物遺存体は、53cm×35cm×13cmのコンテナ２箱程である。Ⅰ区のBO２～BO４、CO２～CO４は、砂層からの出土であり、Ⅱ区は混貝土層からの出土である。Ⅱ区の混土貝層は、土をすべて持ち帰り、５㎜と１㎜の篩を用いて水洗選別を行った。なお、Ⅱ区の13層～15層は、二次堆積による撹乱であるため、種同定及び集計は行わなかった。また、時期については、２層が平安時代以降、16・17層が平安時代、18層以下は縄文時代晩期に属する。以下動物遺存体の内容について記載する。

中沢浜貝塚出土動物遺存体種名表（種名の後の数字は最小個体数を示す）

Ⅰ　軟体動物門
（１）　腹足綱
１．エゾアワビ(7)
２．イシダタミ(1)
３．クボガイ(34)
４．ニシキウズ科の一種(1)
５．チャイロタマキビ(1)
６．タマキビ(8)
７．イボニシ(3)
８．ヒレガイ(5)
９．チヂミボラ(33)
10．レイシガイ(4)
11．クリイロキセルモドキ(1)
12．キセルモドキ科の一種(4)
13．バツラマイマイ(3)
14．オカモノアラガイ(2)
15．ヒダリマキマイマイ(8)
16．オナジマイマイ科の一種(6)
（２）　二枚貝綱
１．タマキガイ(2)
２．イガイ(3)
３．イガイ科の一種(45)
４．ムラサキインコ(2)
５．ホタテガイ（1）
６．マガキ（3）
７．ウバガイ（2）
８．ヤマトシジミ(1)
９．アサリ（1）
10．コタマガイ（1）

Ⅱ　節足動物門
（１）　蔓脚亜綱
１．アカフジツボ(２)
２．チシマフジツボ(2)

Ⅲ　棘皮動物門
（１）　海胆綱
１．キタムラサキウニ(1)

Ⅳ　脊椎動物門
（１）　軟骨魚綱
１．アオザメ（1）
２．サメ目の一種(1)
（２）　硬骨魚綱
１．マダラ（1）
２．フサカサゴ科の一種（3）
３．アイナメ（2）
４．スズキ(1)
５．ブリ属の一種(2)
６．マダイ（6）
７．カツオ（5）
８．マグロ属の一種（1）
９．ヒラメ（1）
10．フグ科の一種(1)
（３）　鳥綱
１．ガンカモ科の一種（1）
（４）　哺乳綱
１．モグラ科の一種（1）
２．ノウサギ(1)
３．ネズミ科の一種（1）
４．ハタネズミ亜科の一種(1)
５．テン(1)
６．イヌ科の一種(3)
７．イノシシ(7)
８．シカ(5)
９．ウシ(3)
10．ウマ(2)

第10表　中沢浜貝塚出土動物遺存体層位別出土数表

発掘区	層位	種　　名	部　位　名	数	発掘区	層位	種　　名	部　位　名	数
BO2	2層	クボガイ		3	BO4	3層	イヌ科の一種	左上腕骨近位端	1
BO2	2層	タマキビ		1	BO4	17層	クボガイ		3
BO2	2層	チヂミボラ		2	BO4	17層	タマキビ		2
BO2	2層	オカモノアラガイ		1	BO4	17層	ヒレガイ		1
BO2	2層	イガイ科の一種	右殻	1	BO4	17層	チヂミボラ		5
BO2	16層	エゾアワビ		1	BO4	17層	レイシガイ		1
BO2	16層	ヒレガイ		1	BO4	17層	ヒダリマキマイマイ		3
BO2	16層	チヂミボラ		2	BO4	17層	イガイ科の一種	左殻	3
BO2	16層	オナジマイマイ科の一種		1	BO4	17層	イガイ科の一種	右殻	2
BO2	16層	イガイ科の一種	左殻	1	BO4	17層	ムラサキインコ	左殻	1
BO2	16層	マガキ	左殻	1	BO4	17層	ホタテガイ	殻片	1
BO2	16層	ヤマトシジミ	左殻	1	BO4	17層	アサリ	左殻	1
BO2	16層	マダイ	右角骨	1	BO4	17層	アオザメ	遊離歯	1
BO2	16層	カツオ	尾椎骨	1	BO4	17層	フサカサゴ科の一種	右前上顎骨	1
BO2	16層	イノシシ	右下顎第3後臼歯	1	BO4	18層	タマキビ		1
BO2	17層	クボガイ		3	BO4	18層	チヂミボラ		1
BO2	17層	チヂミボラ		2	BO4	18層	イガイ	左殻	2
BO2	19層	ムラサキインコ	左殻	1	BO4	18層	アサリ	右殻	1
BO3	2層	タマキビ		1	BO4	18層	ニホンジカ	左中節骨	1
BO3	2層	イボニシ		1	CO2	16層	ニシキウズ科の一種		1
BO3	2層	チヂミボラ		4	CO2	16層	レイシガイ		1
BO3	2層	キセルモドキ科の一種		1	CO2	16層	マガキ	殻片	1
BO3	2層	タマキガイ		1	CO2	17層	クボガイ		4
BO3	16層	クボガイ		8	CO2	17層	チヂミボラ		2
BO3	16層	タマキビ		1	CO2	17層	ヒダリマキマイマイ		1
BO3	16層	ヒレガイ		1	CO2	17層	イガイ	左殻	1
BO3	16層	チヂミボラ		5	CO2	17層	マガキ	右殻	1
BO3	16層	ヒダリマキマイマイ		3	CO2	19層	チヂミボラ		1
BO3	16層	オナジマイマイ科の一種		5	CO3	2層	ブリ属の一種	左方骨	1
BO3	16層	タマキガイ	右殻	2	CO3	2層	イヌ科の一種	左下顎犬歯	1
BO3	17層	クボガイ		1	CO3	2層	ウシ	下顎切歯	①
BO3	17層	チヂミボラ		1	CO3	2層	ウシ	下顎切歯	1
BO3	17層	マガキ	右殻	1	CO3	2層	ウマ?	大腿骨近位端（骨頭部）	①
BO3	18層	サメ目の一種	脊椎骨	1	CO3	16層	エゾアワビ		1
BO3	18層	カツオ	尾椎骨	1	CO3	16層	イシダタミ		1
BO3	18層	イノシシ	歯種不明遊離歯	1	CO3	16層	クボガイ		6
BO4	2層	エゾアワビ		1	CO3	16層	タマキビ		1
BO4	2層	キタムラサキウニ	歩帯破片	1	CO3	16層	チヂミボラ		1
BO4	2層	キセルモドキ科の一種		1	CO3	16層	レイシガイ		1
BO4	16層	エゾアワビ		1	CO3	16層	キセルモドキ科の一種		3
BO4	16層	クボガイ		3	CO3	16層	オカモノアラガイ		1
BO4	16層	イボニシ		1	CO3	16層	ヒダリマキマイマイ		1
BO4	16層	チヂミボラ		2	CO3	16層	イガイ科の一種	左殻	18
BO4	16層	レイシガイ		1	CO3	16層	イガイ科の一種	右殻	31
BO4	16層	イガイ科の一種	左殻	1	CO3	16層	チシマフジツボ	殻片	1
BO4	16層	イガイ科の一種	右殻	1	CO3	16層	カツオ	腹椎骨	2
BO4	16層	マダラ	左耳石	1	CO3	16層	カツオ	尾椎骨	1
BO4	16層	モグラ科の一種	右下顎骨(M2・M3)残存	1	CO3	16層	イヌ科の一種	頸椎	1

発掘区	層位	種　　名	部　位　名	数	発掘区	層位	種　　名	部　位　名	数
CO3	16層	イヌ科の一種	腰椎	1	2－1	17層	ウマ	左橈骨遠位端	①
CO3	17層	ウバガイ	左殻	1	2－1	18層	マガキ	右殻	1
CO3	17層	ハタネズミ亜科の一種	左下顎骨(I1-M1-M2)残存	1	2－1	19層	エゾアワビ		1
CO3	17層	ニホンジカ	胸椎	1	2－1	19層	ガンカモ科の一種	右中手骨	1
CO4	16層	クボガイ		2	2－2	2層	フサカサゴ科の一種	右前鰓蓋骨	1
CO4	16層	イボニシ		1	2－2	2層	フサカサゴ科の一種	左上擬鎖骨	1
CO4	16層	ヒレガイ		1	2－2	2層	フサカサゴ科の一種	右上擬鎖骨	1
CO4	16層	チヂミボラ		3	2－2	2層	アイナメ	左主上顎骨	1
CO4	16層	イガイ科の一種	左殻	5	2－2	2層	マダイ	上後頭骨	3
CO4	16層	イガイ科の一種	右殻	6	2－2	2層	マダイ	左前上顎骨	1
CO4	16層	ムラサキインコ	右殻	1	2－2	2層	マダイ	左歯骨	1
CO4	16層	ウバガイ	左殻	1	2－2	2層	マダイ	右角舌骨	1
CO4	16層	コタマガイ	左殻	1	2－2	2層	マダイ	左舌顎骨	1
CO4	16層	アカフジツボ	殻片	1	2－2	2層	マダイ	右肩甲骨	1
CO4	16層	カツオ	尾椎骨	2	2－2	2層	マダイ	腹椎骨	2
CO4	17層	タマキビ		1	2－2	2層	マグロ属の一種	尾椎骨	1
CO4	17層	イガイ科の一種	左殻	1	2－2	2層	ヒラメ	尾椎骨	1
CO4	17層	ネズミ科の一種	右大腿骨近位端	①	2－2	2層	ノウサギ	右第３中足骨	1
2－1	16層	クボガイ		1	2－2	2層	テン	左下顎骨(P3-P4-M1-M2)残存	1
2－1	16層	チャイロタマキビ		1	2－2	2層	イノシシ	頑頭骨	1
2－1	16層	ヒレガイ		1	2－2	2層	イノシシ	左側頭骨	1
2－1	16層	チヂミボラ		2	2－2	2層	イノシシ	左下顎第２後臼歯	1
2－1	16層	クリイロキセルモドキ		1	2－2	2層	イノシシ	右肩甲骨近位端	1
2－1	16層	イガイ科の一種	右殻	1	2－2	2層	イノシシ	第３・第４基節骨	①
2－1	16層	チシマフジツボ	殻片	1	2－2	2層	ニホンジカ	腰角片（切断痕あり）	1
2－1	17層	エゾアワビ		1	2－2	2層	ニホンジカ	右上顎第４前臼歯	1
2－1	17層	エゾアワビ		②	2－2	2層	ニホンジカ	左大腿骨遠位端	1
2－1	17層	バラフマイマイ		3	2－2	2層	ニホンジカ	左基節骨近位端	1
2－1	17層	イガイ科の一種	右殻	2	2－3	2層	アイナメ	右方骨	1
2－1	17層	ホタテガイ	殻片	1	2－3	2層	アイナメ	腹椎骨	2
2－1	17層	アカフジツボ	殻片	6	2－3	2層	マダイ	鰓骨	1
2－1	17層	チシマフジツボ		3	2－3	2層	イノシシ	左上顎骨(P4-M1-M2)残存	1
2－1	17層	フサカサゴ科の一種	右主上顎骨	1	2－3	2層	イノシシ	右上顎第２後臼歯	1
2－1	17層	スズキ	右主鰓蓋骨	1	2－3	2層	イノシシ	右下顎第２後臼歯	1
2－1	17層	ブリ属の一種	右歯骨	1	2－3	2層	イノシシ	右橈骨近位端	1
2－1	17層	マダイ	右主上顎骨	1	2－3	2層	イノシシ	右寛骨	1
2－1	17層	マダイ	右歯骨	1	2－3	2層	ニホンジカ	右耳骨	1
2－1	17層	マダイ	右口蓋骨	1	2－3	2層	ニホンジカ	右上顎第２後臼歯	1
2－1	17層	マダイ	骨癌	1	2－3	2層	ニホンジカ	右下顎第２後臼歯	1
2－1	17層	カツオ	尾椎骨	1	2－3	2層	ニホンジカ	右下顎第３後臼歯(乳歯？)	①
2－1	17層	フグ科の一種	左歯骨	1	2－3	2層	ニホンジカ	左肩甲骨近位端	1
2－1	17層	イノシシ	左上顎第２後臼歯	1	＊数欄の○数字は若獣あるいは幼貝を示す。				
2－1	17層	イノシシ	歯種不明未萌出歯	①	種名の記載にあたっては、主に以下の図鑑を参考にした。				
2－1	17層	シカ	右下顎第１後臼歯	1	北隆館『新日本動物図鑑 下巻』監修 岡田要・内田清之助・内田亨；1965 東海大学出版会『日本産魚類検索 全種の同定』中坊徹次編；1993 エル貝類出版局『日本及び周辺地域産軟体動物総目録』 肥後俊一・後藤芳央；1993				
2－1	17層	ウシ	左上腕骨骨幹部	1					
2－1	17層	ウシ	左上腕骨遠位端	1					
2－1	17層	ウシ	右橈骨？骨幹部	1					
2－1	17層	ウシ	右大腿骨遠位端	1					
2－1	17層	ウマ	左橈骨近位端	①					

動物遺存体の種同定は、軟体動物については殻頂部、脊椎動物については主に関節部を同定部位とし、それぞれが残存するものについて行った。その結果、腹足綱16種（陸産種６種・海産種10種）、二枚貝綱10種（すべて海産種）、蔓脚亜綱２種、海胆綱１種、軟骨魚綱２種、硬骨魚綱10種、鳥綱１種、哺乳綱10種の計８綱52種が確認された。種名については種名表、出土内容については第10表に示した。

Ⅰ　軟体動物門

腹足綱16種、二枚貝綱10種の計26種が出土した。岩礁性の種は腹足綱10種、二枚貝綱４種、砂泥底の種は二枚貝綱６種である。また、陸産種は６種であるが、これらの種については自然混入の可能性が高い。

貝類は、全体的に出土数が少ない。また、種類も陸産巻貝などの自然混入の可能性の高い種や、食用とならない小型種や個体を除くとその組成は比較的単純なものである。最小個体数の多い種は、クボガイ34個体、チヂミボラ33個体、イガイ科の一種45個体（殻頂部のみの残存であるためイガイ科に留めたが、イガイである可能性が高い）で、この３種が貝類全体の62％を占める。これらの種は、広田湾の岩礁部に普通に見られる種で、現在でも５月頃に採集され、茹でて食される種である。また、他の種を見ても、岩礁部に生息する種の比率が53％であり、砂泥底に生息する種は、個対数的にも少ない。したがって、これまでの中沢浜貝塚からの貝類の出土状況と比較して著しい変化は認められず、岩礁部に依存した採貝活動を示しているものと思われる。しかしながら、今回の調査では、一部の混貝土層を検出したのみであるためか、中沢浜貝塚の主体的な種であるムラサキインコの出土数が少ないといえる。

Ⅱ　節足動物門

蔓脚亜綱２種が出土した。出土した資料は、殻片であり量的に少ない。チシマフジツボは、広田湾内の岩礁部に普通に見られる種であり、小型の個体が多く食用とは考え難い。また、アカフジツボは、これまでの出土傾向と同様に個体数は多くないが、わずかながら出土する種である。岩礁部には、ほとんど見られず、通常は船底・浮標・延縄などに付着する種である。

いずれも何らかの付着物として搬入された可能性が高いものと思われる。

Ⅲ　棘皮動物門

海胆綱１種が出土した。現在の広田湾でも普通に生息するキタムラサキウニである。出土数は非常に少なく、殻板の歩帯破片がわずかに１点ＢＯ５－２層より出土したのみで、口器を構成する部位の出土は見られなかった。

Ⅳ　脊椎動物門

軟骨魚綱２種、硬骨魚綱10種、鳥綱１種、哺乳綱10種の計23種が出土した。種類数は比較的多いが出土数は少ない。硬骨魚綱においては、マダイ、フサカサゴ科の一種、カツオ、哺乳綱においては、イノシシ、ニホンジカが比較的まとまって出土しているが、各層からの出土量は少ない

（１）軟骨魚綱

アオザメの遊離歯・サメ目の一種の脊椎骨が出土しているのみである。サメ目の骨は装飾品などの製品に加工されることが多いが、本資料においては特に加工の痕跡は認められない。

（2）硬骨魚綱

10種が出土した。最小個体数は多い順にマダイ（6個体）、カツオ（5個体）フサカサゴ科の一種（3個体）、アイナメ（2個体）、マダラ、スズキ、ブリ属の一種、マグロ属の一種、ヒラメ、フグ科の一種がそれぞれ1個体である。マダイは2－2－2層から上後頭骨3点をはじめとして、最も多く出土しているが、その他の部位骨は少ない。出土した部位はほとんどが内臓骨であり、中軸をなす脊椎骨は腹椎骨が2点出土しているのみである。この傾向は、フサカサゴ科の一種をはじめ、他の種にも見られるものであるが、カツオは、内臓骨の出土が全く見られず、脊椎骨のみである。全体的に資料数が少ないため、推測の域を脱しないが、魚種による処理方法の相違を示唆しているものと思われる。

また、今回出土した魚類の遺存骨は、大型のものは見られず、中型から小型の個体がほとんどである。

（3）鳥綱

鳥類の遺存骨は、出土量が非常に少ない。2－1－6層からガンカモ科の一種の右中手骨1点が出土したのみである。大きさからカルガモ大のカモ類のものと思われる。

（4）哺乳綱

10種が出土したが、出土量は少ない。最小個体数は、イノシシ（7個体）、ニホンジカ（5個体）、イヌ科の一種（3個体）、ウシ（3個体）、ウマ（2個体）モグラ科の一種、ノウサギ、ネズミ科の一種、ハタネズミ亜科の一種、テンがそれぞれ1個体である。

最も出土数の多いイノシシは14点出土しているが、半数の7点が遊離歯である。その他の部位には、頭頂骨、左側頭骨、左上顎骨、右肩甲骨、右橈骨、右寛骨、第3・第4基節骨があるが、いずれも破片である。成獣・若獣の数は、成獣5個体に対して若獣2個体である。

シカは、12点出土している。イノシシ同様遊離歯の出土が多く12点中5点が遊離歯である。他の部位には、鹿角片、右耳骨、左肩甲骨、左大腿骨、左基節骨、左中節骨、胸椎がある。いずれも小破片であるが、鹿角片には角尖部と切り離すためのものと思われる切断痕が明瞭に残る。成獣・若獣の数は、成獣4個体に対して若獣1個体である。

イヌ科の一種は左下顎犬歯、左上腕骨、頸椎、腰椎が出土している。左下顎犬歯、頸椎、腰椎はかなり大型のものである。

ウシは、6点出土しているが、下顎切歯遊離歯2点がCO3－2層、左上腕骨2点、右橈骨？、右大腿骨が2－1－17層からの出土であり、いずれも平安時代あるいは平安時代以降の層からの出土である。下顎切歯遊離歯1点は若獣のものと思われ、最小個体数は成獣2、若獣1である。

ウマは3点出土している。ウシと同様の地区から出土している。CO3－2層より左右不明の大腿骨骨端、2－1－17層より左脛骨の近位骨端と遠位骨端が出土している。いずれも骨化してしない骨端部であり、若獣のものである。

その他の哺乳類は、大腿骨、第3中足骨、下顎骨などの部位骨が1点のみの出土である。

以上中沢浜貝塚出土動物遺存体について、全体的に記載したが、同定した資料総数は192点である。192点の時期は、平安時代以降と思われる2層54点、平安時代と思われる16層69点、17層54点、縄文時代晩期と思われる18層11点、19層4点と大半が平安時代あるいはそれ以降に属する。

陸前高田市内遺跡発掘調査報告書

中沢浜貝塚1999

Ⅰ　調査に至る経過及び調査過程（第１図・第２.写真図版3－6～8）

調査は、「史跡中沢浜貝塚の現状変更（擁壁工事）」に伴う緊急発掘調査である。

平成11年５月31日、同事業の実施にあたり事業主体者である菅野タケオから、文化財保護法第80条第１項の規定に基づく現状変更の許可申請が当教育委員会になされた。これを受けて当教育委員会では、工事予定地内の現地踏査等を行い、結果、管理計画書に記載されている、その他の工事「遺構が無い場合認める。」及び「災害等により緊急性のある場合は別途協議する。」に該当するものとの判断から、意見書を添え、平成11年６月１日付け陸高教社第66号で岩手県教育委員会事務局文課課に進達した。

平成11年６月15日、教文第277 号で岩手県教育委員会より、当教育委員会による発掘終了後という条件付き許可の通知があり発掘届者へ通知した。これをうけて当教育委員会では、発掘調査に伴う現状変更申請を平成11年６月24日付け陸高教社第88号で岩手県教育委員会に進達した。

平成11年６月29日、教文第352 号で岩手県教育委員会より、発掘に伴う現状変更の許可の通知があり、平成11年10月４日と５日に発掘調査を実施した。出土遺物等の整理作業は、平成11年12月の１か月で行った。

発掘調査の報告は、平成11年付け陸高教社第160 号で岩手県教育委員会に報告した。

調査の結果、遺構等は検出されず、遺物も少量であったため、擁壁工事を平成12年３月15日に着手し、平成12年６月23日に終了した。

平成12年６月27日事業主体者より現状変更終了届が当教育委員会に提出された。これを受けて、当教育委員会では、平成12年７月10日付け陸高教社第98号で、岩手県教育委員会事務局文化課に進達した。

Ⅱ　層序（第３図）

層序は、発掘くの北壁を実測したものであるが、堆積した層は地表面から30cm程と浅く、３層からなる。以下、各層の特徴に触れる。

１層　表土である。発掘区の東側では層厚は30cm程と厚く、地山直上の層である。西側では厚さは薄くなり、層厚10cm程である。色調は10YR3/2 黒褐色で、炭化物・焼土を含まず、遺物・礫を少量含んでいる。砂層で粘性は無く、柔い。

２層　色調は10YR2/1 黒色で、炭化物・焼土を含まず、遺物を少量含んでいる。砂層で粘性は無くやや固い。

３層　色調は10YR4/3 にぶい黄褐色で、炭化物・焼土を含まず、遺物を少量含んでいる。砂層で粘性は無くやや固い。

４層　地山。花崗岩の風化土である。

Ⅲ　出土遺物

平成１１年度の中沢浜貝塚の発掘調査で得られた資料は、土器片と石器・動物遺存体があるが、出土数は少ない。ここでは、土器・石器に分け、その概要に触れる。なお、動物遺存体は表土からの出土であるため割愛した。

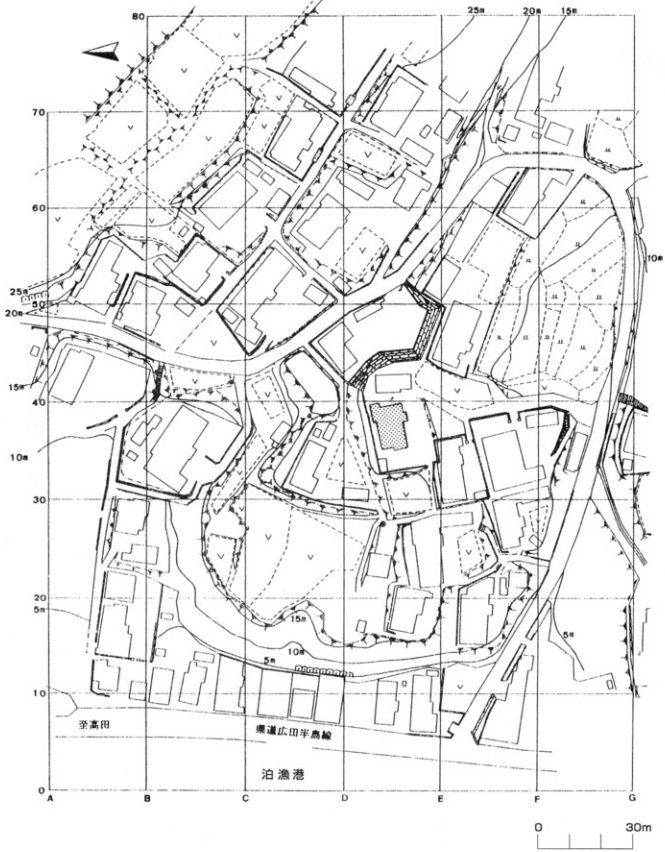
1　土器（第４図）

出土した土器は、二次的な堆積と思われる小破片３２１点が出土した。小破片で磨滅しているため文様等明瞭な資料も少なく、２０点を図示したのみである。時期的には、縄文時代前期から晩期にかけてのものが見られる。

１は縄文時代前期のものと思われる深鉢の体部片である。沈線による山形文を有している。２は縄文時代中期の平縁深鉢の口縁部片である。口縁は外傾し、口縁部に幅の狭い無文帯を有し、体部地文部と一状の隆線によって区画されている。３は後期前葉の深鉢の体部片である。横位の隆線を有している。４・５は後期中葉のものである。４は深鉢の体部片で沈線と磨消縄文によって文様が描かれている。５は平縁深鉢の口縁部片である。口縁は内湾し、口唇部に刻み目を持つ山形突起を有している。文様は、口唇部まで縄文が施文され頸部に一条の沈線を有している。６～10は後期後葉の深鉢の体部片である。６・７は貼り瘤を、８・９はは区画文内に刻み目を、10は区画文内に櫛引き文を有している。11～16は晩期のものである。11・12は大洞Ｂ式に相当するもので三叉文を有するものである。11は注口土器の口縁部片で口縁は内湾する。12は浅鉢の体部片である。13～15は大洞BC式のもので羊歯状文を有するものである。13・14は平縁の鉢の口縁部片で、口縁部の断面は頸部で締まり外反している。15は深鉢の体部片である。16は大洞C2式の小波状口縁をなす深鉢の口縁部片である。口縁部の断面形は頸部で締まり、外反している。文様は、口縁部に無文帯を有し、体部には横位の沈線が三条巡り口縁部無文帯とを区画している。また、口唇部内側にも一条の沈線を有している。17は時期不明の平縁深鉢の口縁部片である。断面形は幾分内湾する。無文である。

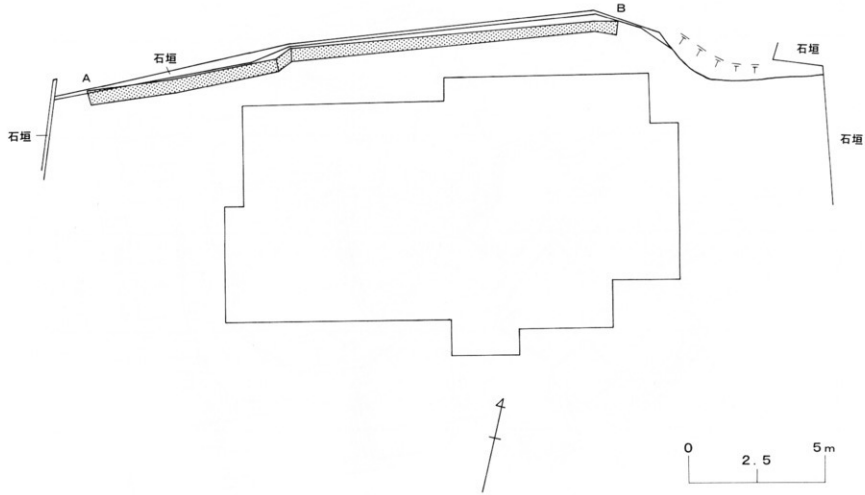
2　石器（第４図）

出土した石器は、石鏃２点・不定型石器２点・使用痕石器１点がある。18は基部が尖基をなす石鏃である。鏃身は二等辺三角形状で側縁は直線的である。先端部を欠損する。19は有茎の石鏃である。茎部は欠損する。基部は丸みをもって作りだされ、鏃身は二等辺三角形状、側縁は外弧をなす。両面にアスファルト痕を残す。20・21は不定型石器である。直線的な両刃の刃部を一辺に有している。22は使用痕石器である。一辺にごく狭い範囲で使用痕を有している。

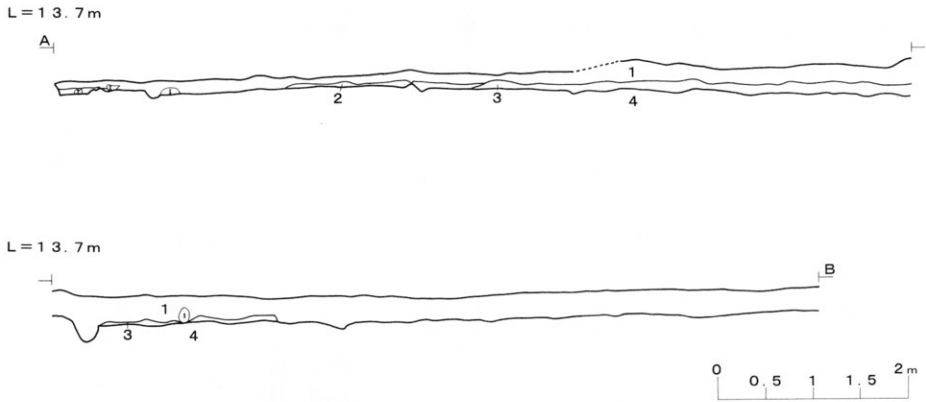


80
70
60
50
40
30
20
10
0
A
B
C
D
E
F
G
25m
20m
15m
10m
5m
至高田
県道広田半島線
泊漁港
0
30m

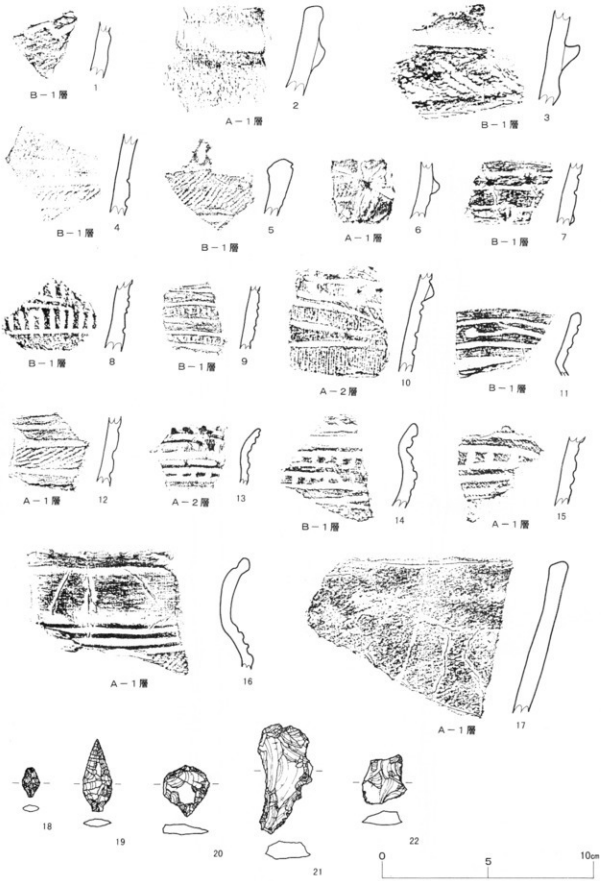
第1図 地 形 図



第2図　発 掘 区

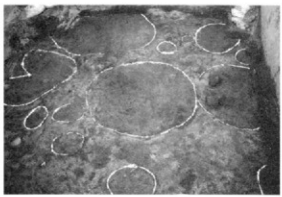


第3図　層の体積状況



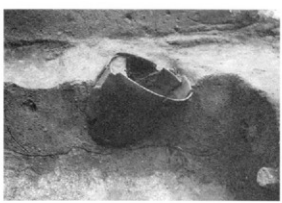
第4図　遺構外出土土器・石器

1. Ⅰ区 近景



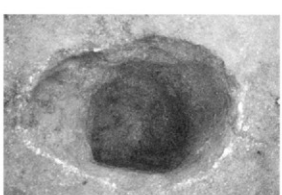
2. Ⅰ区 遺構検出状況

3. BO2 埋設土器

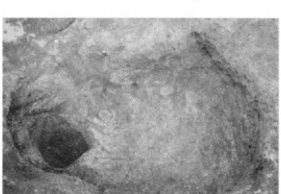


4. BO2 埋設土器半掘

5. BO2−1ピット・2ピット 北壁セクション



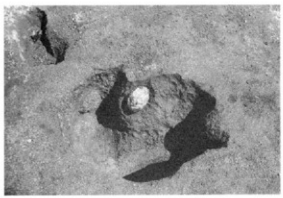
6. BO3−1ピット 完掘状況



7. BO3−2ピット 完掘状況

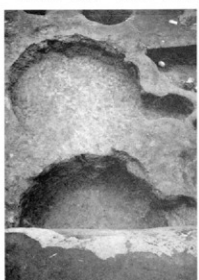
8. CO2−1・2ピット 半掘状況

写真図版 1



1. C02－1ピット・2ピット　アスファルト出土状況

2. C02－1ピット・2ピット・C03－1ピット　完掘状況



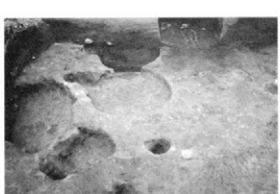
3. C02－1ピット・2ピット C03－1ピット・2ピット・3ピット 完掘状況

4. C03－2ピット・3ピット　北壁セクション

5. C03－3ピット　人骨検出状況

6. C03－3ピット　人骨検出状況

7. C03－3ピット　人骨検出状況



8. A区ピット群　西より

写真図版　2

1. Ⅰ区ピット群　南より

2. C04グリット　出土遺物

3. Ⅱ区　近景

4. C09−1ピット　完掘状況

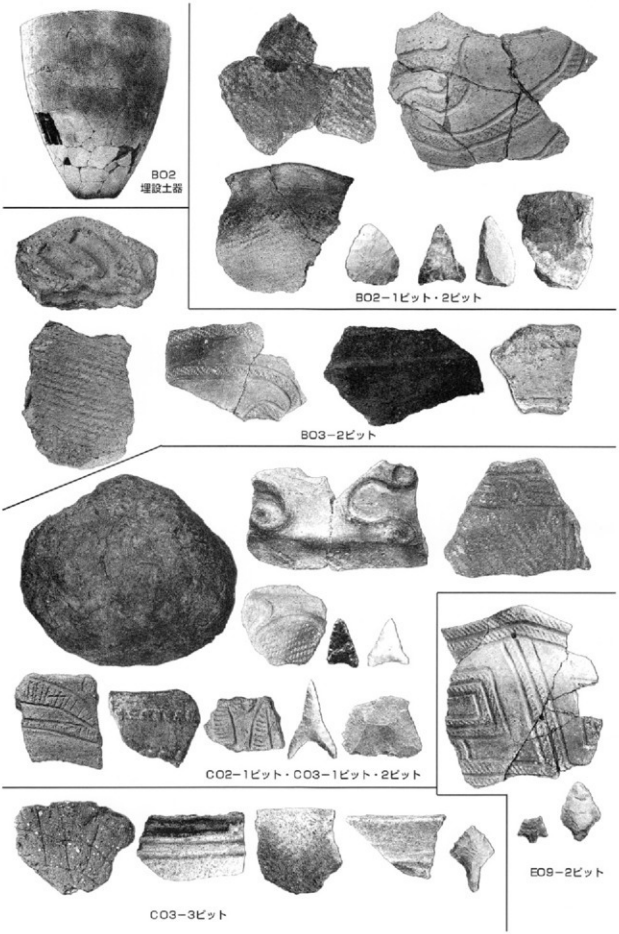
5. Ⅱ−2区　北壁

6. NZH99

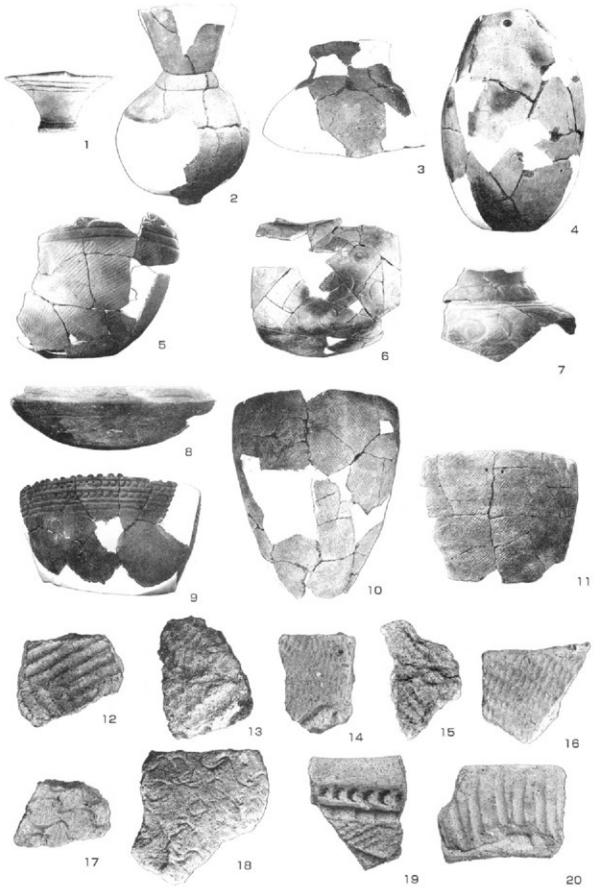
7. NZH99

8. NZH99

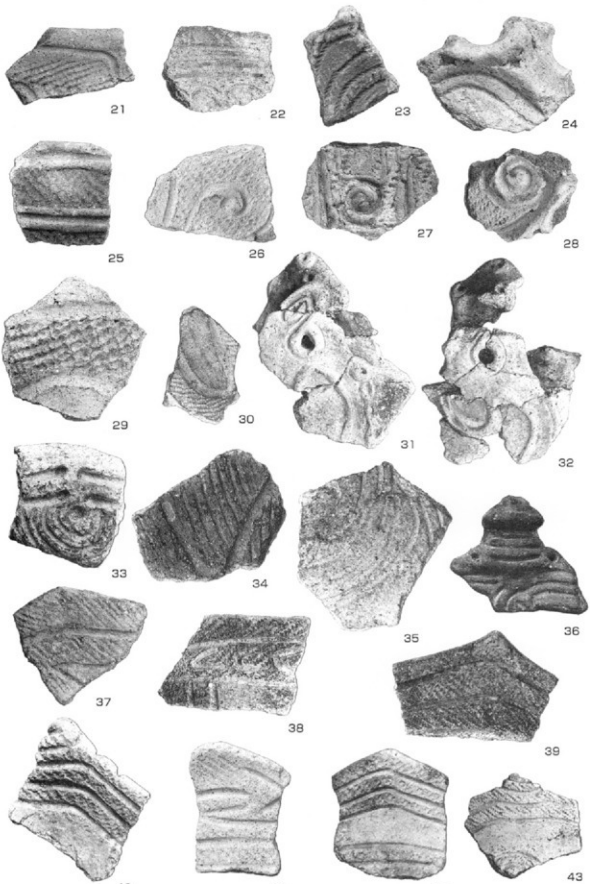
写真図版　3


B02
埋設土器
B02−1ビット・2ビット
B03−2ビット
C02−1ビット・C03−1ビット・2ビット
E09−2ビット
C03−3ビット

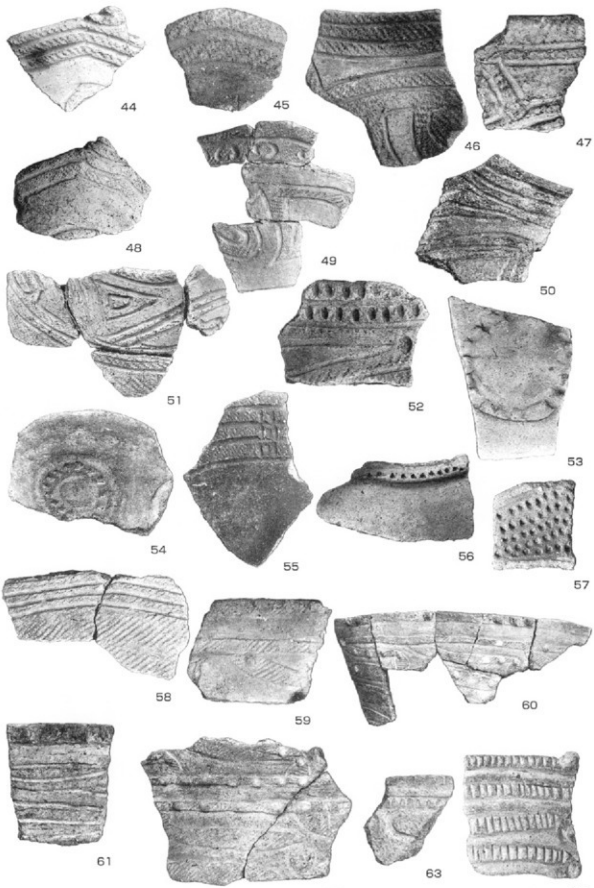
写真図版　4



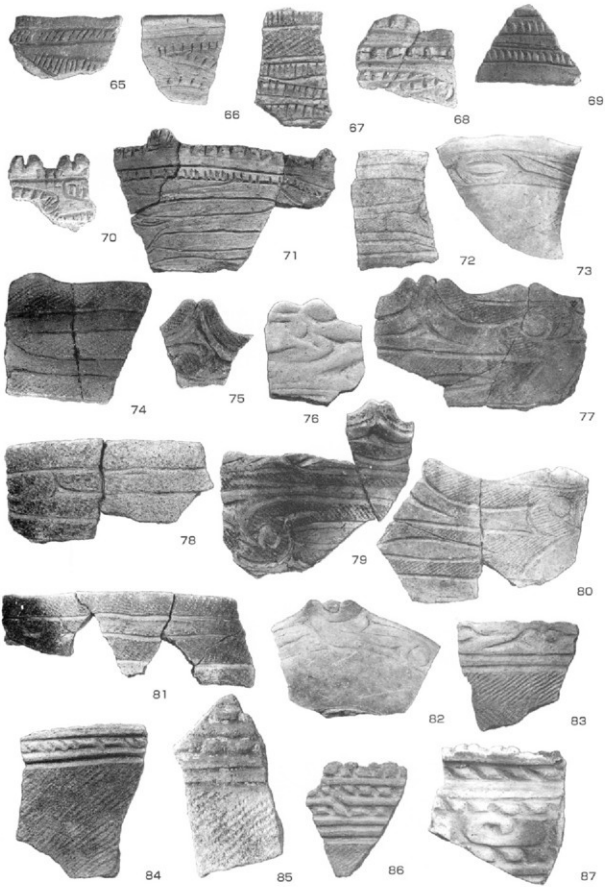
写真図版　5



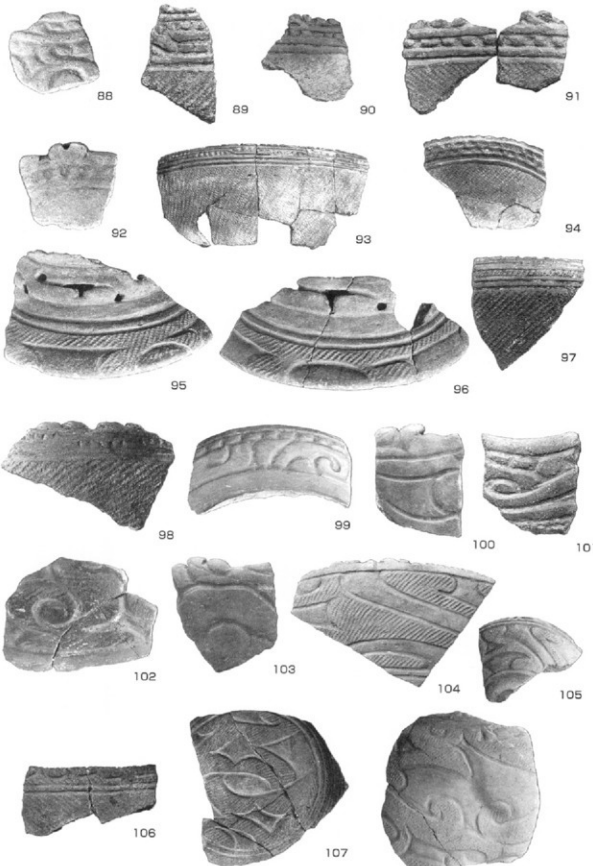
写真図版　6



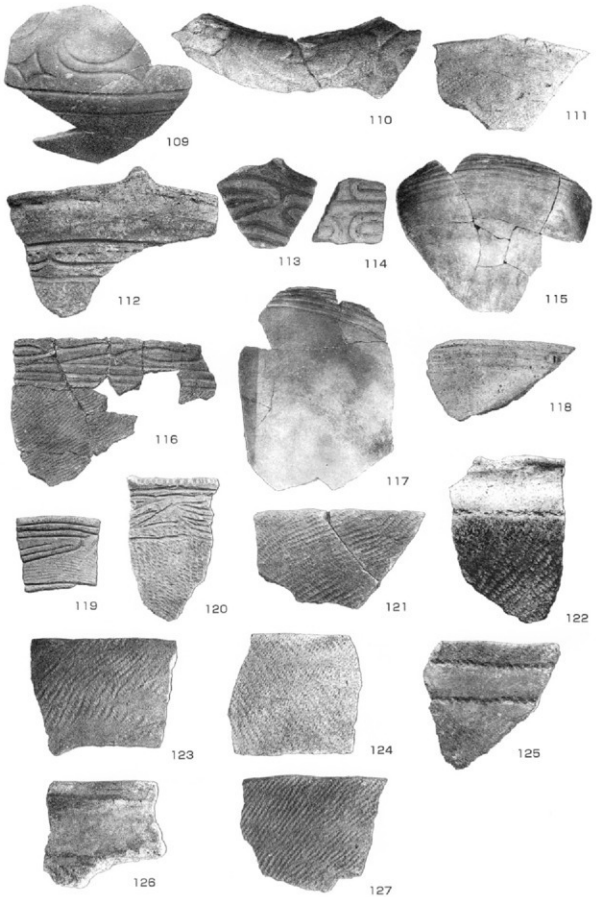
写真図版　7



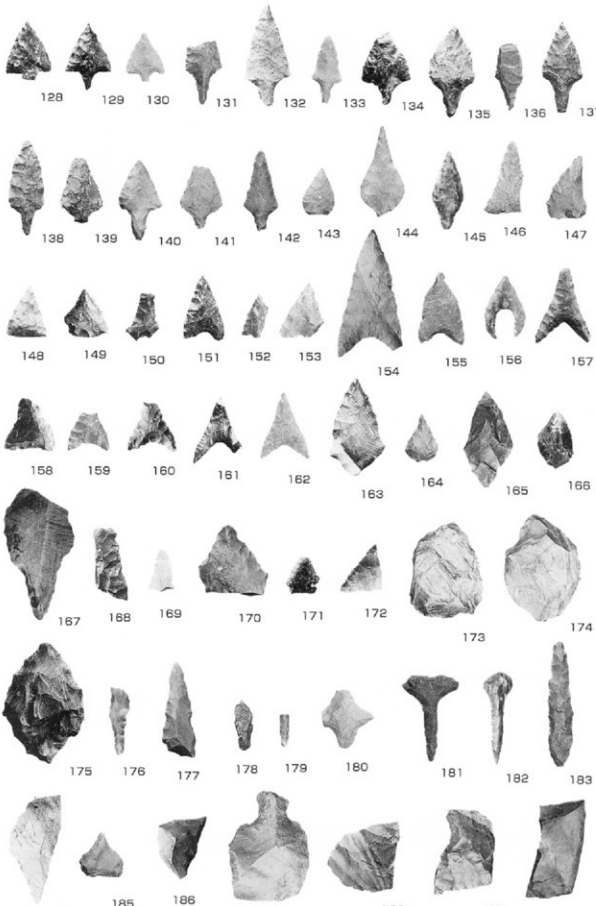
写真図版 8


88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108

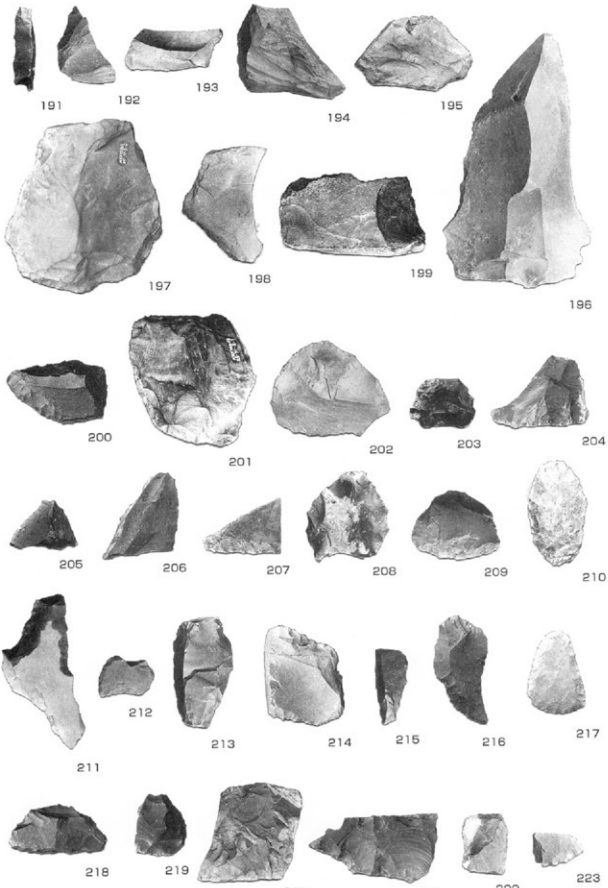
写真図版　9


109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127

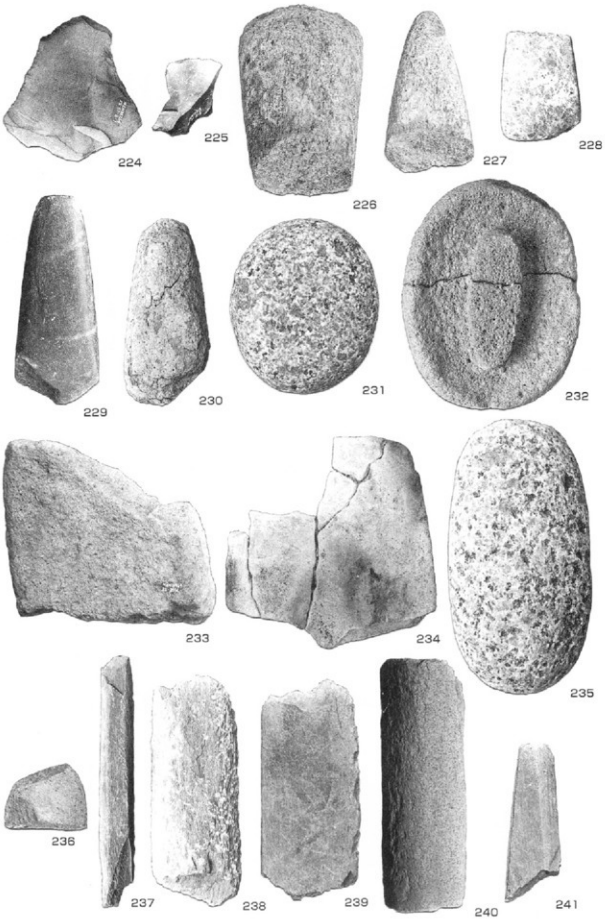
写真図版　10


128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190

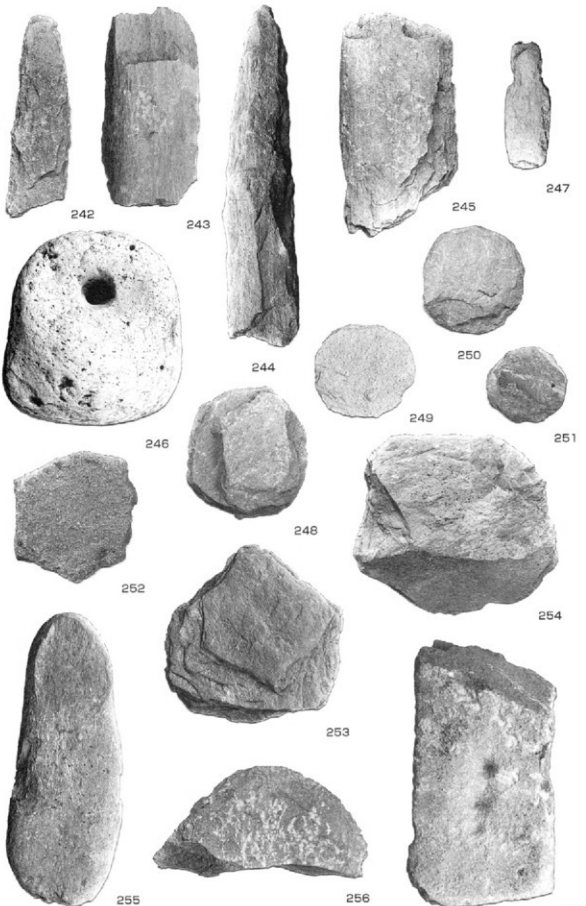
写真図版　11


191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223

写真図版　12


224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241

写真図版　13



写真図版　14

258

259

260

261

262

263

264

265

266

写真図版　15

中沢浜貝塚１９９８年出土人骨

地土井健太郎[1]　奈良貴史[1]　鈴木敏彦[2]　百々幸雄[1]
(1) 東北大学大学院医学系研究科人体構造学講座
(2) 東北大学歯学部口腔解剖学第一講座

1998年、岩手県中沢浜貝塚から縄文時代頃と思われる人骨が１体発見されたが、これはその人類学的調査結果である。主な骨の計測法はMartin and Saller（1957）に、歯の計測法は藤田（1949）に従った。なお顔面の平坦度計測はYamaguchi（1973）に従った。

出土状態

顔面は北東方向を向いた状態である。上半身は伸展、左右上肢も体幹に沿って伸展している。下半身は左右の両膝を揃えて伸展した状態である。人骨は、全て解剖学的位置を保っており、一次埋葬の仰臥伸展葬と判断される。頭位方向は南東で、墓坑長軸と体幹方向ははぼ一致する。

遺存状態

頭蓋骨は、前頭骨鼻部、左頬骨、上顎骨の頬上顎縫合付近、および後頭骨大後頭孔周囲、蝶形骨体を主体とする部分を欠損するが、概して遺存状態は良好であり、頭蓋冠、顔面の観察、計測には十分である。これに対して、体幹・四肢骨の保存状態は比較的不良である。特に体幹骨の破片化が著しい。

四肢骨は骨幹部を中心に保存される。同定できた部位は図１の黒塗りの部分で示した。残存歯は次の通りである。

M3	M2	M1	dm2	P1	C	I2	I1	I1	I2	C	○	dm2	M1	M2	M3
M3	M2	M1	dm2	P1	C	I2	I1	○	○	C	P1	dm2	M1	M2	M3

○：死後の歯の脱落
■：遊離歯

下顎左側第三大臼歯は顎骨内に埋入し、他の第三大臼歯は顎骨の破損により遊離している。四本の第二乳臼歯が残存し、後継永久歯である第二小臼歯は未萌出である。下顎第二大臼歯は咬合平面に達しているが、上顎第二大臼歯は、隣接する上顎第一大臼歯の歯頚部程度にまでしか萌出していない。左側の第二大臼歯のほうが若干萌出程度が進んでいる。

第二乳臼歯の咬耗は上下ともに進行しており、象牙質が露出している。特に下顎第二乳臼歯の遠心頬側咬頭、およびこれと対咬する上顎第二乳臼歯の近心舌側咬頭の咬耗が著しい。永久歯はエナメル質に限局した咬耗が認められる（Molnar ２度）。ただし、下顎右側中切歯は切縁の一部で象牙質が露出し（Molnar ４度）、またこれと対咬する上顎右側中切歯の一部にも下顎歯と対応する部位に限局した咬耗が認められる（Molnar ３度）。齲蝕は認められない。下顎切歯部舌側に歯石の沈着が認められる。また、エナメル質減形成が認められる。

年齢

左右の上・下顎第二乳臼歯がまだ植立したままだが、左右の上顎第二大臼歯が萌出途中、さらに左右の下顎第二大臼歯の萌出が終了している。したがって歯の萌出状態によれば、年齢は12歳程度と推定される。

性別

年齢が12歳程度と推定されること、寛骨がほとんど形状を留めていないことから、性別を判定する材料は少ないが、頭蓋骨の前頭結節の発達が見られるなどの女性的印象がある。

形態学的特徴

頭蓋骨所見

頭蓋骨計測値、頭蓋形態小変異の有無、歯冠計測値は、表1,2,3にまとめて示した。

頭蓋骨上面観は、前方が狭い楔形である。頭蓋骨長幅示数は79.9と、短頭を示した。後面観は、矢状縫合部、頭頂結節が軽度に突出し、側面が下内側方に向かい傾斜する天幕型を呈する。乳様突起、乳突上稜は未発達で、全体として下すぼまりで繊細な印象をあたえる。顔面では、眉間の突出はごく軽度で眉弓の発達はなく、前額部がほぼ垂直に立ち上がるのが観察されるが、鼻根部の陥凹の程度は観察不可能である。鼻骨は、正中部の前方への突出が弱く、全体的に平坦である（鼻骨平坦示数、15.4）。鼻骨最小幅は6.5mmとなり、縄文時代成人の平均値（関東縄文人男性、10.6mm、Suzuki,1969）よりも小さい。上顎骨前頭突起が前頭平面となす角度は、縄文時代人にしばしば観察されるように大きくなく、むしろこの面と平行に近い角度をなしている。したがって、鼻骨も含めた鼻部の印象は、一般的に縄文時代人の特徴とされる立体的な印象と異なり、平坦なものとなっている。鼻骨の下半が欠損しており、梨状孔の形態を観察することは不可能であるが、鼻高、鼻幅の計測は可能である。鼻示数は47.9となり、狭鼻に近い中鼻となった。眼窩はその上縁が軽度に円弧を描き、結果として円形に近い方形を呈する。眼窩示数は87.5と高眼窩型を示した。犬歯窩は浅く、軽度の歯槽性突顎が認められる。また、上下切歯の咬合は、いわゆる鋏状咬合である。一見して下顎枝、筋突起は幅広く（下顎枝示数：77.1（右））、筋突起の前縁は軽度の円弧を描いて前方に突出している。

従来より、縄文時代人骨の形態的特徴として、広鼻、低眼窩、鉗子状咬合、また鼻部から鼻根部にかけての部分の立体的な形態があげられてきた。本標本の形態的特徴はこれらとは異なっており、概して典型的な縄文時代人骨の特徴を有するとはいいがたい。しかし、このような特徴が成長のどの段階から明瞭に現れてくるかが明らかでないため、死亡時年齢が12歳と推定される本標本において観察された所見が、人類学的にどの程度の意味を持つものであるかは、現段階では明言できない。事実、鉗子状咬合は、成長期初期の鋏状咬合が強い咬耗により変化した結果、生じたものであるとの主張もある（Kaifu, 1998）。ただし、鼻骨に関しては、門前３号人骨（縄文中期～後期、９歳）、田柄６号人骨（縄文後期、４～５歳）を観察するかぎりにおいて、幼小児の段階ですでに明瞭な正中稜が観察され、鼻骨全体として屋根状の形態を備えている。これに加えて、上顎骨前頭突起が前頭面に対して矢状方向に立ち上がるため、鼻根部の形態は、全体として立体的になっている。笠原（1999）によると、一般的に鼻骨上部は０～６歳の年齢群において、すでに成人とほぼ同程度まで成長しているという。これにしたがえば、本標本のすくなくとも鼻部は、縄文時代人としては典型的ではない形態を備えていると判断してさしつかえないであろう。

体幹・四肢骨

四肢骨の計測値を表4に示す。

体幹骨は、軸椎の保存状態が比較的良好であるが、他は破片化が著しく、特記することはない。

四肢骨は、長骨の骨幹部を中心に遺存する。左右の上腕骨とも三角筋粗面は発達せず、中央付近の骨幹の断面は正三角形に近く（図2）、中央横断示数は右80.0、左92.9で扁平傾向を示さない。尺骨骨幹の断面形状は、縄文人に高頻度で認められる、最大径が骨間縁と後縁の間、最小径が前縁と後面の間にある組合せでなく、最大径が骨間縁と内側面の間、最小径が前縁と後縁の間にある組合せである（山口、1982）。左右の大腿骨とも殿筋粗面が若干発達し、粗線が内側唇、外側唇とも確認できるが、ピラステルは発達していない（図2）。骨体中央断面示数は、右105.9、左111.8である。左右の脛骨に、不明瞭ながらヒラメ筋線が認められる。脛示数は、右75.0、左81.8と、ともに広脛に分類され、縄文人に多くみられる扁平傾向は示さない（図2）。左右の腓骨の骨幹外側部に鉛直方向の溝は認められず、縄文人に多くみられる樋状腓骨とはいえない。

以上のように、四肢骨においても縄文人に典型的な特徴は認められなかった。東北地方において、同程度の年齢の縄文人小児人骨の報告例は少なく、四肢骨の形態学的所見を得られるのは、福島県薄磯貝塚出土の10歳と推定される小児人骨のみである（馬場他、1987）。四肢骨における縄文人的な特徴が成長のどの段階から現れてくるか、未だ明らかではないが、少なくとも薄磯の小児人骨は、すでに明瞭な樋状腓骨と、本人骨よりも強い扁平性を備えた脛骨を有し、一般的に指摘されてきた縄文人的特徴を備えている。したがって、本人骨の四肢骨の形態は、年齢を考慮に入れても縄文時代人としては典型的ではないと判断してさしつかえないであろう。

病変

右の眼窩は破損しているため観察不可能であるが、左の眼窩の上板にはストレスマーカーの一つである眼窩篩（クリブラ・オルビタリア）が認められる。細孔が散在するポローテック型（Hirata,1988）に相当し、程度としては軽症である。

歯に発育期の栄養障害によると考えられるエナメル質減形成が認められた。エナメル質減形成は、縄文時代人の約半数、48.1%に認められるという（山本1988）。

まとめ

1998年の中沢浜貝塚遺跡発掘調査により1体の縄文時代人骨が出土した。死亡時年齢は12歳前後と推定される。性別は不明である。本人骨は、一般的に縄文時代成人骨の形態的特徴とされる所見に乏しいことが明らかとなったが、それが、未だ成長期にあるためなのか、集団内の個体差なのか、あるいは他の理由によるものなのかは、現段階では名言できない。

謝辞

人骨の洗浄・復元には宮城学院女子大学佐伯史子嬢の手を煩わせた、記して感謝したい。

文献

馬場悠男・小野寺覚・江藤盛治(1987) 薄磯貝塚出土小児1号人骨. 人類学雑誌, 95, 497-513.

Dodo,Y.&H. Ishida (1990) Population history of Japan as viewed from cranial nonmetric variation.Journal of the Anthropological Society of Nippon,98,269-287.

Hirata, K.（1988）A contribution to the palaeopathology of cribra orbitalia in Japanese.1.Cribra orbitalia in Edo Japanese.The St.Marianna Medical Journal,16,6-24

地土井健太郎（1997）蛇王洞縄文早期人骨の人類学的研究．人類学雑誌，105,293-317

Kaifu, Y.（1998）Alveolar Prognathism and tooth wear.Anthropol.Sci.,106(2),136.

笹原典夫（1999）「現代日本人鼻骨および上顎骨の成長に関する研究」，東北大学大学院医学系研究科修士論文．

Molnar, S.（1971）Human Tooth Wear,Tooth Function and Cnltural Variability. American Journal of Physical Anthropology,91,1-20.

Suzuki, H.（1969）Microevolutional changes in the Japanese population from the prehistoric age to the present-day.J.Fac.Sci.Univ.Tokyo,Sec (Anthropology),3,279-309.

Yamaguchi, B.（1973）Facial flatness measurements of the Ainu and Japanese crania.Bulletin of the National Science Museum Tokyo,16,161-171.

山口　敏（1982）縄文人骨．加藤晋平・小林達雄・藤本強編「縄文文化の研究１　縄文人とその環境」雄山閣出版，東京，27-88．

山本美代子（1988）日本古人骨永久歯のエナメル質減形成．人類学雑誌，96,417-433.

表1　中沢浜98-1号人骨頭蓋の計測値と示数

M1	頭蓋最大長		174
M8	頭蓋最大幅		139
M8/1	頭蓋長幅示数		79.9
M9	最小前頭幅		94
M9/8	横前頭頭長示数		67.6
M10	最大前頭幅		(113)
M11	両耳幅		122
M12	最大後頭幅		105
M23	脳頭蓋水平周		496
M24	横弧長		314
M25	正中矢状弧長		(359)
M26	正中前頭弧長		(130)
M27	正中頭頂弧長		123
M41	側顔長	rt./lt.	71/77
M43	上顔幅		98
M47	顔高		105
M48	上顔高		65
M50	前眼窩間幅		17
M51	眼窩幅	rt./lt.	40/39
M52	眼窩高	rt./lt.	35/-
M52/51	眼窩示数	rt./lt.	87.5/-
M54	鼻幅		23
M55	鼻高		48
M54/55	鼻示数		47.9
M57	鼻骨最小幅		6.5
M68	下顎長		(75)
M69	オトガイ高		(28)
M70	下顎枝高	rt./lt.	48/(48)
M71	下顎枝幅	rt./lt.	37/38
M71/70	下顎枝示幅	rt./lt.	77.1/(79.2)

単位：mm

顔面平坦度計測（Yamaguchi,1973による）

前頭弦（fmo-fmo）	90.5
ナジオンからの垂線	15.4
前頭平坦示数	17.0
鼻骨弦（鼻骨最小幅）	6.5
鼻骨正中稜からの垂線	1.0
鼻骨平坦示数	15.4

単位：mm

表2　中沢浜98-1号人骨の頭蓋非計測的形態小変異

1. 前頭縫合		−
2. 眼窩上神経溝	rt./lt.	−/−
3. 眼窩上孔	rt./lt.	＊/−
4. ラムダ小骨		−
5. 横後頭縫合痕跡	rt./lt.	−/−
6. アステリオン小骨	rt./lt.	−/−
7. 後頭乳突縫合骨	rt./lt.	−/−
8. 頭頂切痕骨	rt./lt.	−/−
9. 顆管開存	rt./lt.	＊/＊
10. 前顆結節	rt./lt.	＊/＊
11. 傍顆突起	rt./lt.	＊/＊
12. 舌下神経管二分	rt./lt.	−/−
13. フシュケ孔	rt./lt.	−/−
14. 外耳道骨腫	rt./lt.	−/−
15. 卵円孔形成不全	rt./lt.	−/−
16. ベサリウス孔	rt./lt.	−/±
17. 翼棘孔	rt./lt.	−/−
18. 翼大翼孔	rt./lt.	−/−
19. 内側口蓋管	rt./lt.	＊/−
20. 横頬骨縫合痕跡	rt./lt.	＊/−
21. 顎舌骨筋神経溝骨橋	rt./lt.	−/−
22. 下顎隆起	rt./lt.	−/−
23. 頚静脈孔二分	rt./lt.	＊/＊
24. 矢状洞溝分枝型		左

＋：有　±：傾向　−：無　＊：判定不可能

表3　中沢浜98-1号人骨の歯冠計測値

		右側		左側	
		近遠心径	唇・頬舌径	近遠心径	唇・頬舌径
上顎	I1	8.40	7.24	8.25	7.13
	I2	6.76	6.59	6.64	5.66
	C	7.85	8.30	7.61	8.35
	P1	7.37	9.68	……	……
	P2	……	……	……	……
	M1	10.42	11.27	10.12	11.18
	M2	顎骨内埋入・計測不能		9.52	11.92
	M3	9.32	10.41	8.92	10.96
	dm2	8.74	9.91	9.11	9.85
下顎	I1	5.35	5.77	……	……
	I2	5.86	6.18	……	……
	C	6.74	7.86	6.75	7.93
	P1	6.94	7.95	6.94	7.94
	P2	……	……	……	……
	M1	11.29	10.33	11.32	10.27
	M2	11.02	10.38	11.23	10.44
	M3	11.33	10.84	……	……
	dm2	10.16	9.02	9.91	8.98

表4　中沢浜98-2号人骨四肢骨の計測値

		右	左
上腕骨			
M5	中央最大径	15	14
M6	中央最小径	12	13
M7	骨体最小周	45	43
M7a	中央周	47	46
橈骨			
M3	骨体最小周	30	28
M4	骨体横径	12	12
M4a	骨体中央横径	11	12
M5	骨体矢状径	8	7
M5a	骨体中央矢状径	7	7
尺骨			
	骨体最大径	−	8
	骨体最小径	−	9
大腿骨			
M6	骨体中央矢状径	18	19
M7	骨体中央横径	17	17
M8	骨体中央周	58	58
脛骨			
M8	中央最大矢状径	19	20
M8a	栄養孔位最大径	24	22
M9	中央横径	18	18
M9a	栄養孔位横径	18	18
M10	骨体中央周	59	59
腓骨			
M2	中央最大径	11	10
M3	中央最小径	8	8
M4	中央周	30	30

単位：mm

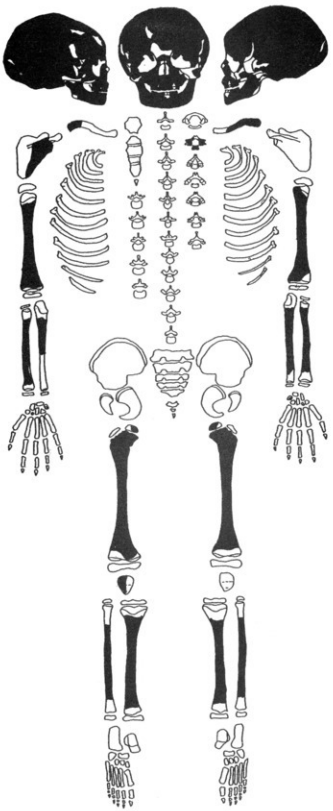


図1　同定できた部位

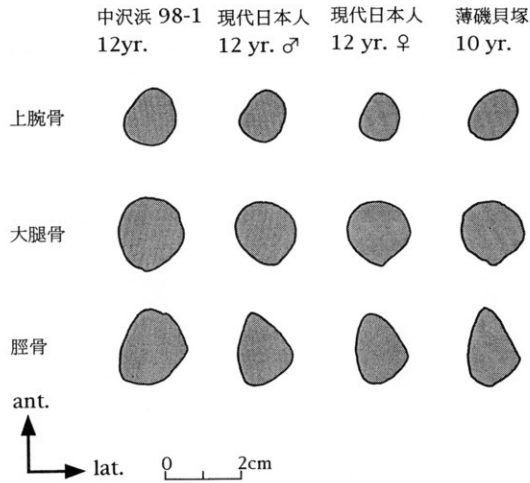
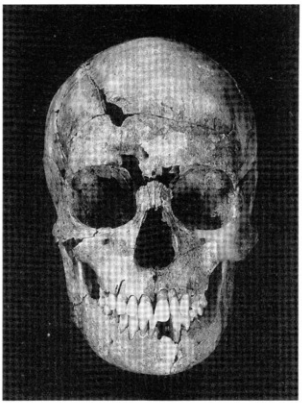
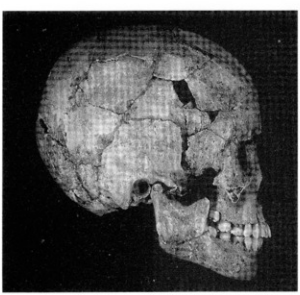


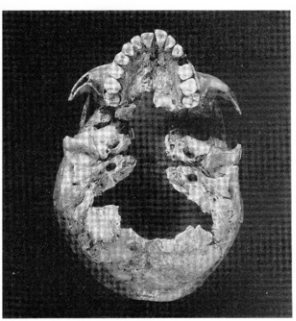
図2 各四肢骨の骨体中央横断面



1

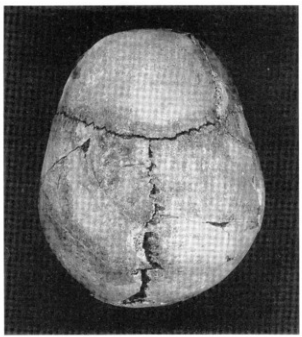


2

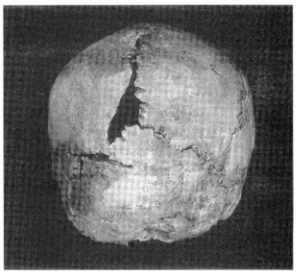


3

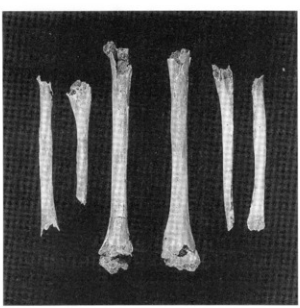
図版1　頭蓋骨　1　正面観、2　側面観、3　底面観



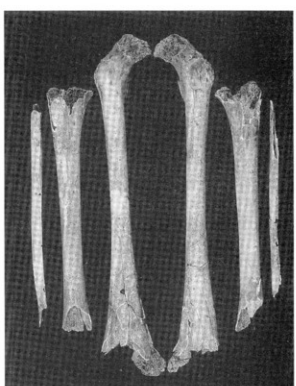
1



2



3



4

図版2　頭蓋骨　1　上面観、2　後面観　四肢骨　3　上肢骨、4　下肢骨

報告書抄録

ふりがな	なかざわはまかいづか1998
書名	中沢浜貝塚1998
副書名	陸前高田市内遺跡発掘調査報告書2
巻次	
シリーズ名	陸前高田市文化財調査報告書
シリーズ番号	第22集
編著者名	佐藤正彦　熊谷賢
編集機関	陸前高田市教育委員会（担当：陸前高田市教育委員会事務局社会教育課）
所在地	〒029-2205　岩手県陸前高田市高田町字館の沖110　℡0192(54)2111
発行年月日	西暦　2000年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
なかざわはまかいづか 中沢浜貝塚	いわてけんりくぜん 岩手県陸前 たかたしたかだ 高田市高田 まちあざなかざわ 町字中沢 84		ＮＦ88－ 1298	38度 57分 06秒	41度 41分 49秒	1998.5.15 ～ 1998.7.2	60.0㎡	現状変更 （住宅改築 に伴う緊 急発掘）
	いわてけんりくぜん 岩手県陸前 たかたしたかだ 高田市高田 まちあざなかざわ 町字中沢		ＮＦ88－ 1298	38度 57分 06秒	41度 41分 49秒	1999.10.4 ～ 1999.10.5	8.8㎡	現状変更 （擁壁工 事）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中沢浜貝塚 1998年調査	貝塚	縄文時代	埋設土器 ピット	縄文土器（前～晩期） 弥生土器、土師器、須恵器、石器、骨角器 自然遺物（動物遺存体） 人骨	
中沢浜貝塚 1999年調査	貝塚	縄文時代	なし	縄文土器（前～晩期） 石器 自然遺物（動物遺存体）	

岩手県陸前高田市

市内遺跡発掘調査報告書

（陸前高田市埋蔵文化財調査報告書第22集）

発　行　日　2000年3月
編集・発行　陸前高田市教育委員会
岩手県陸前高田市高田町館の沖110
TEL（0192）54-2111
印　　刷　（有）高田活版
岩手県陸前高田市高田町字馬場前114
TEL（0192）55-2694